

治安維持法中改正ノ件會議筆記
正

昭和三年六月二十八日

国立公文書館

利用上の注意

は、非公開の席上における発言を記録したものであります。したがって当該発言者の共同著作物と解されますので、引用等発表に際し著作権法上の問題の生ずることのないよう特に御配慮願います。

国立公文書館

分類

配架番号

2 A

15-10

⑧D 628

樞密院會議筆記

一治安維持法中改正ノ件―初目

昭和三年六月二十七日(水曜日)午前十時三十五分開議

昭和三年六月二十七日(水曜日)午前十時三十五分開議
聖上臨御

出席員

倉富議長

平沼副議長

大臣

田中内閣總理大臣 四番

小川鐵道大臣 五番

岡田海軍大臣 六番

白川陸軍大臣 七番

中橋商工大臣 八番

三土大藏大臣 九番

山本農林大臣 十番

望月内務大臣 十一番

原 司法大臣 十二番

久原遞信大臣 十三番

勝田文部大臣 十四番

顧問官

金子顧問官 十八番

久保田顧問官 十九番

富井顧問官 二十番

井上顧問官 廿一番

平山顧問官 廿二番

石黒顧問官 廿三番

珍田顧問官 廿四番

山川顧問官 廿六番

黒田顧問官 廿七番

松室顧問官 廿九番

江木顧問官 三十番

内田顧問官 卅一番

田顧問官 卅四番

荒井顧問官 卅五番

河合顧問官 卅六番

鎌田顧問官 卅九番

關席員

皇族

雍仁親王 一番

宣仁親王 二番

載仁親王 三番

顧問官

伊東顧問官 十六番

九鬼顧問官 十七番

中村顧問官 卅五番

古市顧問官 卅八番

八代顧問官 卅二番

櫻井顧問官 卅三番

石原顧問官 卅七番

齋藤顧問官

卅八番

委員

前田法制局長官

黑崎法制局參事官

成毛內閣拓殖局長

秋田內務政務次官

潮 內務次官

橫山內務省警保局長

長岡社會局長官

小原司法次官

泉二司法省刑事局長

報告員

平沼審查委員長

書記官長

二上書記官長

書記官

村上書記官

堀江書記官

武藤書記官

議長(倉富)

之ヨリ會議ヲ開ク

治安維持法中改正ノ件

ヲ議題ニ供ス第一讀會ヲ開キ議案ノ朗讀ヲ
省略シテ直ニ審査委員長ノ報告ヲ求ム

報告員(平沼)

今回御諮詢ノ治安維持法中改正

ノ件ニ付本官等審査委員タルノ命ヲ承ケ本
月十四日以來數次委員會ヲ開キ國務大臣及
關係諸官ノ辯明ヲ聽キ以テ慎重審議ヲ遂ケ
タリ

現行ノ治安維持法第一條第一項ニ依レハ國

體ヲ變革シ又ハ私有財産制度ヲ否認スルコ
トヲ目的トシテ結社ヲ組織シ又ハ情ヲ知リ
テ之ニ加入シタル者八十年以下ノ懲役又ハ
禁錮ニ處スルコトトセリ然ルニ近ク不逞ノ
徒祕密結社ヲ組織シ世界革命ヲ目的トスル
露國ノ國際共產黨ノ指揮ヲ承ケ畏クモ我カ
國體ヲ變革シテ勞農ノ獨裁政治ヲ行ハムト
スルノ非謀ヲ企ツル者アルコト發覺シ其ノ
所爲洵ニ兇惡戰慄ニ堪ヘサルモノアリ是レ
一ニハ前記ノ罰則カ此ノ極惡ナル犯罪ニ對

シ不適當不充分ナルノ致ス所ナルニ由リ將
來ニ向テ更ニ處罰スヘキ罪ヲ追加シ適用ス
ヘキ刑ヲ加重シ以テ最モ有效適切ナル罰則
タラシムルコトヲ必要トシ本案ヲ以テ前掲
ノ現行規定ニ相當ノ改正ヲ加ヘムトスルモ
ノニシテ即チ國體變革ノ目的ニ出ツルモノ
ト私有財産制度否認ノ目的ニ出ツルモノト
ヲ區別シ國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ
結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他
指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ

無期若ハ五年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處スルコトトシ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處スルコトトセムトス其ノ他數條項ニ互ル改正ハ總テ右ニ示シタル改正ノ結果タル條項ノ整

理ニ外ナラス

本案ノ内容ハ憲法上ノ立法事項ニ屬スルモノニシテ元來法律ノ形式ニ依ルヘキコト固ヨリ當然ナルヲ以テ内閣ニ於テハ曩ニ本案ト同趣旨ノ法律案ヲ第五十五回帝國議會ニ提出シタルモ衆議院ニ於テ審査未了ト爲リ議會ノ協賛ヲ得ルニ至ラザリシモノナリ然ルニ前記犯罪事件ノ檢舉ニ因リ漸ク判明セラル所ニ徴スルニ爾後不逞ノ徒益其ノ非謀ヲ逞ウセムトスルノ形勢ナルヲ以テ本案ノ法

律改正ハ刻下緊急ノ必要アリ到底時日ヲ空
過スヘカラサルヲ以テ茲ニ帝國憲法第八條
第一項ノ規定ニ從ヒ緊急勅令ノ形式ニ依ラ
ムトスルモノナリト謂フ
按スルニ本案ハ國體ノ變革又ハ私有財産制
度ノ否認ヲ目的トスル犯行ノ最モ惡逆ニシ
テ極力之カ掃蕩防遏ニカメサルヘカラサル
ヲ念ヒ此ノ目的ノ爲現行治安維持法ニ相當
ノ改正ヲ加ヘ以テ之ニ對スル有效適切ナル
罰則ヲ設ケムトスルモノニシテ其ノ趣旨ニ

於テ不可ナル所ナク又現下ノ事態極メテ急
迫ヲ告クルモノアルニ鑑ミ帝國議會閉會中
ノ今日ニ於テ帝國憲法第八條第一項ニ依ル
緊急勅令ノ形式ヲ採ルコト洵ニ已ムヲ得サ
ルモノト認ム而シテ本案ハ帝國憲法第七十
條ニ依ル財政上ノ緊急處分ノ場合ト異リ帝
國議會ヲ召集スル能ハサルコトヲ以テ其ノ
制定ノ要件トセス又其ノ内容ニ於テモ特ニ
非議スヘキ廉ヲ認メサルニ由リ之ヲ是認ス
ルノ外ナキモノトス但ク茲ニ本官等ノ特ニ

提言シテ政府當局ノ留意ヲ求メサルヘカラ
サル事項アリ

一政府ハ曩ニ本案ト同趣旨ナル治安維持法
中改正法律案ヲ第五十五回帝國議會ニ提
出シ緊急ノ必要アルニ拘ラス議會ヲシテ
之カ審議ヲ盡サシムル爲會期延長ノ如キ
適宜ノ處置ヲ講スルコトナク徒ニ之ヲ未
議了ニ終ラシメタルノミナラス爾後荏苒
月餘ノ日子ヲ隔テタル今日ニ至リテ漸ク
本案ヲ以テ斯ノ改正ヲ行ハムトスルハ其

ノ舉措甚タ當ヲ得サルモノト謂ハサルヘ
カラス本官等ハ此ノ點ニ關シ眞ニ遺憾ノ
念禁スル能ハサル所ナリトス

二過激思想及之ニ基ク非謀ヲ防遏スル爲本
案ノミヲ以テ充分ナル對策ト認ムヘカラ
サルコト言ヲ俟タス故ニ此ノ外政府當局
ニ於テ今後採ルヘキ措置固ヨリ二三ニシ
テ止ラサルヘシト雖大凡左ノ數點ニ付テ
ハ特ニ此ノ際當局ノ考慮ヲ求ムルノ必要
アルモノト認ム

(イ)思想ノ善導ニ付當局ハ學校教育タルト
社會教育タルトヲ問ハス教育ノ改善ニ
最モ力ヲ致スヘキハ勿論學校内ニ於ケ
ル惡思想ノ傳播ニ對シテハ極力之ヲ防
遏スル爲充分ノ措置ヲ講セムコトヲ希
望ス

(ロ)國民生活ノ安定ヲ圖ルハ思想問題ノ解
決策トシテ又最モ緊要事ニ屬スルカ故
ニ當局ハ貧富ノ階級的反目ヲ助長スル
カ如キ官民ノ行動ヲ深ク戒メ且諸般ノ

社會政策的施設ノ實行徹底ニ努力セム
コトヲ希望ス

(ハ)今回我カ國ニ於テ發覺シタル秘密結社
ハ露國ノ國際共產黨ノ指揮ノ下ニ組織
セラレタルモノナリト聞ク當局ハ該秘
密結社ト露國トノ關係ニ付更ニ充分ナ
ル調査ヲ遂ケ且速ニ適當ナル對策ヲ施
サムコトヲ希望ス

(ニ)今回ノ共產黨事件ノ檢舉ニ鑑ミ我カ國
在來ノ警察及檢察制度ノ組織機能ニ付

遺憾ノ點少カラサルモノアルヲ以テ當

局ニ於テハ一層之カ改善ニ努力シ犯罪

ノ搜查ヲ最モ敏活有效ナラシムコト

ヲ希望ス

審査委員會ニ於テハ本件ハ原案ノ通り可決

セラレ然ルヘキ旨前記ノ意見ト共ニ多數ヲ

以テ議決シタリ

右審査ノ結果ヲ報告ス

議長(倉富)

議事ニ關シテ一言ス先ツ本案ニ對

シテ質問ヲ許シ質問ニ對スル答辯ノ終了シ

タル後討論ニ入ルコトトスヘシ

十九番

(久保田)

本員ハ所勞ノ爲起立シテ演述

スルコト困難ナルヲ以テ御前ニ於テ甚ク恐

懼ノ至ナレトモ著席ノ儘發言スルコトヲ許

サレタシ

議長

(倉富)

起立シテ發言スルコト困難ナレハ

已ムヲ得サルニ付今回ニ限り之ヲ認ムヘシ

十九番

(久保田)

本員ハ本案審査委員ノ一人ナ

リシヲ以テ委員長ノ報告ヲ補充シ且卑見ヲ

述ヘテ政府ニ對シ質ス所アラムトス

本案ハ公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ必要ニ由リ憲法第八條ニ依リテ非常立法ヲ爲サムトスルモノナリト云フモ之ヲ精査スレハ幾多ノ疑問ヲ生シ容易ニ決シ難キモノアリ極惡非道ナル共產主義者ニ對シテ重刑ヲ課スルハ格別異議ナカルヘシト雖唯政府ノ認ムル如ク緊急ノ必要アリヤ否ヤ又刑罰ヲ加重スルコトノミカ唯一ノ對應策ニシテ他ニ手段ナキヤ否ヤカ問題ナリ

政府ハ本案ト略同一ナル法律案ヲ臨時議會

ニ提出シタルニ拘ラス之カ議了ニ努メサリシハ失態タルヲ免レス元ヨリ當時ノ事情ニ付テハ寛恕スヘキモノ無カラスト雖閉會後玆ニ數十日ヲ經過シタルコトハ看過スヘカラサル所ナリトス本案ニ付テハ政府部内及與黨内ニ於テ異論沸騰シ外部ニ於テハ反對黨ハ勿論學者辯護士殊ニ大學教授國體尊重者等ニシテ反對スルモノ少カラス而シテ此等ノ者ノ多クハ非常立法ノ手段ニ依ラス正當ノ手續ヲ踏ムヘキモノナリトノ主張ヲ爲

セリ本員ハ最初本案審査委員ノ任ヲ受ケタル際ハ格別ノ疑ヲ抱カサリシモ後ニ至リ政府ノ説明ヲ聽クニ及ヒテ漸次疑惑ヲ生セリ審査委員中ニハ法學者アリ永ク司法官タリシ者アリ又教育行政ニ深キ經驗ヲ有シ教育勅語ノ起草ニ與カリタル人アリ此等ノ人々ノ反對意見ヲ聞キテ彌々疑團ヲ深クセリ本案ハ上述ノ如ク是非ノ世論喧シク政府部内及與黨中ニ反對アルノミナラス本院ノ委員中ニモ強硬ナル反對アルニ拘ラス急遽之ヲ

議決シ去ルハ如何カアラム或ハ事國體ニ關スルヲ以テ一日モ速カニ決行スヘシトノ説ヲ爲スモノアリ其ノ愛國ノ熱情ニ於テハ全ク同感ナリト雖斯ル重大ナル國務ヲ處理スルニ付テハ聊カ輕舉ニ失スルノ譏ナキヤ本員ハ其ノ結果ノ恐ルヘキモノアルヲ慮リ委員會ニ於テモ此ノ際更ニ政府ノ熟考ヲ促サムコトヲ提議シ委員半數ノ賛成ヲ得タルモ委員長ノ採用スル所トナラス遂ニ多數決ヲ以テ原案ヲ成立セシムルコトニ決セリ今茲

ニ其ノ本員提議ノ要旨ヲ述フレハ次ノ如シ
此ノ法案ハ臨時議會ニ提出シタルモ議了ニ
至ラス政府ハ會期ヲ延長シテ之ヲ成立セシ
ムルノ手段ヲ講セスシテ其ノ儘經過シタリ
爾來數十日ヲ經過シタル今日ニ至リ緊急勅
令ニ依リ之ヲ制定セムトスルハ穩當ノ處置
ニアラス又其ノ理由明晰ヲ缺キ異論物議頗
ル多シ本案ノ制定ハ共產黨防遏ノ爲ニハ必
要ノ一手段ナルヘシト雖他ニモ緊切ノ方法
ナキニアラサルヘシ政府ハ目下ノ政情ニ顧

ミテ先ツ他ニ應急適切ノ手段方法ヲ講シ之
ニ依テ各方面ニ涉リ防遏ノ實行ニ勉メ他日
議會開會ノ機會ニ於テ正當ノ手續ニ依リ本
法ノ制定ヲ爲スコト可ナラム政府ノ熟考ヲ
望ム

由來本院ノ審査委員會ニ於テ賛否相半スル
カ如キ案件ハ從來多ク其ノ例ヲ見サル所ニ
シテ之ヲ以テ觀ルモ如何ニ本問題カ錯綜セ
ルカヲ知ルニ足ルヘシ之ヲ以テ本員ハ樞密
院ノ職責ニ顧ミ伊藤公ノ憲法義解ヲ熟讀シ

再三再四熟考ヲ重ネタルモ今猶初志ヲ翻ヘ
スコト能ハサルヲ遺憾トス依テ御前ニ於
テ甚タ恐多ケレトモ更ニ茲ニ卑見ノ概要ヲ
述ヘテ各位ノ參考ニ供シ更ニ政府ノ再考熟
慮ヲ促サムトスルモノナリ
共產黨ハ大正十二年六月ノ第一次ノ檢舉後
早クモ翌十三年ニハ新黨組織ノ準備ニ著手
シ同十五年十二月ニハ其ノ中心人物十七名
山形縣下ノ某温泉場ニ集合シテ宣言規約等
ヲ決シ共產黨日本支部ヲ設立シ黨員四百餘

名ヲ有スルニ至レリ此ノ間内閣ハ山本清浦
加藤若槻及田中ノ數代ヲ經タルモ警察當局
ハ何レモ此等ノ事實ヲ偵察檢知スルコトヲ
得ス昨年ノ二月ニ至リ始メテ支部設立ノ情
報ヲ握リ本年三月十五日ニ至リテ稍ク全國
一齊ノ大檢舉ヲ決行シ取調ノ結果彼等ノ計
劃規模ノ廣大深遠ニシテ眞ニ畏ルヘキモノ
アルヲ發見シ遽ニ之カ防遏ノ手段ヲ講スル
ニ至レルモノナリ
此ヨリ先キ大正十三年七月第四十九議會ニ

於テ貴族院ノ一議員ヨリ露國ノ第三「インタ
ナショナル」ノ計劃ニ關シ政府ニ警告シタルモ
政府ハ更ニ反省ノ誠意ナク大正十四年四月
加藤内閣ニ於テ現行治安維持法ヲ制定シタ
ルモ搜查檢舉ノ實舉ラス共產主義運動ハ益
擴大シテ遂ニ前述ノ如ク大正十五年十二月
共產黨日本支部ノ設立ヲ見ルニ到レリ政府
ハ本年三月ニ到リテ始メテ之ヲ檢舉シタル
モ數名ノ巨魁ハ未タ縛ニ就カス宣傳文書並
運動資金モ未タ偵知シ得サル有様ナリ我邦

ハ建國以來國民ノ傳統的精神ニ鑑ミ過激思
想ノ遽力ニ侵入スヘキ餘地ナキ筈ナルニ拘
ラス意外ニモ此ノ如キ思想ノ侵入ヲ見タル
ハ幾分世界ノ大勢ニ依ル人心ノ動搖ノ然ラ
シムル所ナルヘシト雖畢竟政府力目前ノ政
爭ニ没頭シ永遠ノ國策ヲ等閑ニ付シタル怠
慢ノ責ニアラサルヤ斯カル國家ノ重大案件
ニ對シテハ須ク一時ノ熱情ヲ抑ヘ慎重審議
而モ速力ニ刻下ノ緊急ニ應スル對策ハ勿論
根本的對策ヲ樹立シ官民一途俱ニ共ニ之ニ

當ルノ覺悟ナカルヘカラス國體ノ變革ヲ夢
ミルカ如キ極惡非道ナル行動ヲ防遏スルニ
ハ刑罰ヲ以テスルコトモ必要ナルヘシト雖
尚幾多他ニ緊切有效ノ手段方法ヲ講スルノ
道アルヘシ若シ政府ニシテ再考ノ餘地アラ
ハ本日ノ會議ハ之ヲ延長セラルヘク若シ其
ノ餘地ナシトセハ遺憾ナカラ本員ハ之ニ反
對スルノ外ナシ目下ノ政局ノ實情ハ政府黨
反對黨其ノ數殆ト相半シ事毎ニ相爭ヘリ本
件ノ如キハ更ニ時局ニ紛擾ヲ増シ將來ニ危

險ノ種ヲ蒔キ遂ニ累ヲ國家ニ及スノ虞アリ
依テ本員ハ憲法論法律論ニ拘泥セス專ラ現
在ノ政局ニ立脚シテ本案ハ決シテ得策ニア
ラスト信シ敢テ微衷ヲ吐露スルモノナリ

四番(田中)

只今久保田顧問官ヨリ委曲ヲ盡シ

テ政府ノ決意ヲ問ハルル所アリ其ノ愛國ノ
熱情ヨリ出テ種々配慮セラルル段深ク敬意
ヲ表ス時局安定ノ要ニ付御說御尤ナリ然レ
トモ政府ニ於テハ共產黨事件ノ調査ノ進捗
スルニ從ヒ本案ノ一日モ之ヲ空ウスルコト

ヲ得サルヲ痛感シ尚隣邦支那ノ現状ヲ觀テ
益、本案立法ノ必要ヲ感スルモノナリ蓋シ今
日ニ於テハ支那ノ共產黨ト日本ノソレトハ
相連絡シテ行動スルヲ以テナリ從テ共產黨
彈壓ノ問題ハ單ナル國內問題ニ非スシテ實
ニ涉外的國際的問題ニシテ支那事件ノ處理
ニ付テモ大ニ考慮セサルヘカラスト考フ
共產黨事件ハ檢舉後ニ於ケル調査ノ進行ニ
從ヒ益、懸念ニ堪ヘサルモノアリ最近ノ調査
ニ依レハ彼等兇徒ハ我軍用火藥庫ノ内部ニ

如何ナルモノノ存スルヤ迄モ内偵セル事實
アリテ事態甚タ容易ナラサルモノアリ斯ル
力故ニ假令新聞紙等ニ於テ反對ノ論議ヲ爲
スモノアルモ政府ニ於テハ斷乎トシテ之カ
彈壓ヲ爲スノ決心ヲ示スコト必要ナリト考
ヘ居レリ尤モ之カ對策ニ就テハ本案ノミカ
唯一ノ方法ナラサルハ勿論教育ノ改善國民
生活ノ安定等種々方策ノ講スハキモノアル
ハ謂フ迄モナシ之ヲ要スルニ政府ニ於テハ
上叙ノ實情ニ鑑ミ此ノ際本案ノ提出ニ關シ

再考スヘキ餘地ナキヲ遺憾トス

二十番(富井)

曩ニ緊急勅令ニ依ル治安維持法

ノ改正ニ就イテハ更ニ再考ノ餘地ナキ旨ヲ

言明セラレタルカ今久保田顧問官ヨリ政府

ノ再考ヲ要ムル旨提案アリタルニ付一言申

述ヘタシ

議長(倉富)

今ハ質問ノ時ナリ御意見ノ陳述ナ

レハ後ニセラレタシ

卅六番(河合)

陸軍大臣ニ問フ凡ソ革命ノ起ル

際ハ先ツ軍隊ニ涉リヲ付ケルカ又ハ之ヲ破

壊スルヲ例トスルモノナルカ現在ノ軍隊狀

態ナレハサマテ恐ルルノ必要ナシト信ス但

懸念スルハ動員ノ際ニ於ケル妨害行爲ナリ

然ルニ先般第三師團ノ動員施行ニ際シ之ヲ

妨害シタルモノアリトノ新聞記事アリ果シ

テ事實ナリヤ妨害者ノ系統ハ如何多少ニテ

モ軍隊ニ其ノ影響ヲ及シタルヤ又之ニ對ス

ル政府ノ御考ハ如何

七番(白川)

共產黨カ軍隊ニ著目セルコトハ兼

テ注意セル所ナルカ第三師團ニ動員令下リ

シトキハ名古屋静岡地方ニ於テ不穩文書ヲ
電信柱ニ貼付シタルモノ及撒布シタル者ヲ
憲兵及警察官ニテ發見シタルモ深キ根據ア
ルモノニアラサルカ如シ然シ尚明確ナラサ
ル點アルヲ以テ地方長官會議ニ於テモ十分
ノ注意ヲ與ヘ置キタリ

二十九番(松室) 只今久保田顧問官ヨリ政府ノ
再考ヲ求ムルコトニ付陳述セラレタルカ本
員モ委員會ニ於テ之レト全ク同一ナル考ヲ
以テ主張スル所アリタルモ遂ニ少數ニテ葬

リ去ラレタリ其ノ後更ニ研究ノ結果茲ニ一
箇ノ動議ヲ提出セムトス

議長(倉富) 只今ハ質問中ニ付後程ニセラレタ
シ

二十一番(井上) 四五日前ノ「ジャパン・アドバー
タイザ」紙上ニ長春ノ露國領事官ト密接ノ
關係アル有力者三名ハ先般ノ檢舉ニ於テ捕
縛ヲ逃レタル主領株ト氣脈ヲ通シテ陰謀ヲ
廻ラシ著々共產主義運動ノ準備ヲ爲セリ依
テ政府ハ彼等ヲ日本ニ近寄ラシメサル爲福

井山口、福岡ノ各縣知事ニ訓令セリ云々ノ記事アリ此ノ如キ事實アリヤ若シ有リトセハ政府ハ日露基本條約第五條ニ基キ露國政府ニ對シテ相當ノ手段ヲ執ラレタルコトト考フ其ノ折衝ノ結果如何假令本案ニシテ裁可公布セラルルモ多クハ陰密ノ間ニ行ハルル主義運動ヲ根底ヨリ撲滅スルハ容易ノ業ニアラスト考ヘラル而シテ此ノ病毒ハ主トシテ露國方面ヨリ輸入セラルルヲ以テ相當ノ方法ニ依リ根本的ニ露國政府ト話ヲ付ケム

コトヲ希望セサルヲ得ス政府ノ所見如何
十一番^(望月) 御質問ノ如キ情報ハ政府ニ於テモ之ヲ入手セルヲ以テ有ラユル手段ヲ盡シテ其ノ搜查及防遏ニカメツツアル次第ナリ其ノ詳細ハ係ノ者ヲシテ答ヘシムヘシ余ハ無政府主義共產主義等ノ運動ハ我日本ニ於テハ到底大ナル功果ヲ收メ得ルモノニアラス斯カル思想ハ必ス芟除スルコトヲ得ヘシト確信セリ而シテ之ヲ芟除スルニハ獨リ法律ノ力ニミ依ルハカラサルハ勿論教育教

化事業社會政策等ニ付テ官民一致ノ努力ヲ
盡シ殊ニ全國民ヲシテ能ク我建國ノ精神ト
國體ノ精華トヲ了解セシムルトキハ必ス斯
ノ如キ外來思想ハ之ヲ屏熄セシムルコトヲ
得ヘシト信ス蓋シ今日妄動スル所謂主義者
ノ實情ヲ凝視スルニ必スシモ眞ニ主義ノ信
仰ニ出ツルモノニアラス或ハ賣名ノ爲或ハ
生活ノ方便トシテ或ハ單ニ新カツテ見タキ
許ニ此ノ群ニ投スルモノ少カラス而シテ此
ノ種ノ輩ハ刑輕ケレハ屢々妄動スルモ死刑

ヲ以テ之ニ臨マハ悚然トシテ屏熄スルニ至
ルヘシト思料ス此ノ事ハ先般ノ檢舉ニテ捕
ヘラレタル者ノ内入黨スルモ殺サレハシナ
イカラヨイデハナイカト口説カレテ入黨連
座セルモノアル事例ニ見ルモ之ヲ察知スル
ニ難カラス政府カ今次特ニ非常立法ニ依リ
テ治安維持法ノ改正ヲ企テタルモ之ヲ以テ
彼等ノ謬想妄動ヲ掃蕩屏熄セシムルニ有效
ナル手段ノ一ナリト信シタルカ爲ニ外ナラ
サルナリ

四番(田中) 本官ニ於テモ露國ヨリ三名ノ有力者ヲ日本ヘ派遣シタリト聞込ミタル故取調ヲ命シタル處外交方面ヨリ其ノ事實判明セリ、依テ露國政府ニ對スル處置トシテ露國大使ヲ呼ヒ我國ニ於ケル共產黨支部ノ現在ヲ述ヘ少クトモ第三「インターナショナル」ハ露國政府ト一種ノ因縁アルモノト思フヲ以テ日本ノ國體又ハ財産制度ノ變革ヲ教唆煽動シ日本國民ノ大ナル惡感ヲ挑發スルコトハ將來日露ノ國交上ニモ重大ナル影響ヲ及ホス

モノニ付注意セムコトヲ求メタリ同大使ハ其ノ由ハ之ヲ本國ニ傳達スヘキ旨ヲ述ヘタリ
最近「モスコ」ニテ發行スル一新聞ハ共產主義ノ實行ニ關シテ論說ヲ掲ケ支那ノ共產黨ノ狀況ヨリ日本ノ共產黨ニ論及シ我國體ノ變革ヲ計ラムトスルカ如キ不穩ノ文學ヲ列ネタリ然レトモ第三「インターナショナル」ノ行動ハ即チ政府ノ行動ト謂ヒ得サルヲ以テ露都駐在ノ帝國大使ヲシテ之ニ抗議ヲ申込マ

シメ注意ヲ喚起スルノ手段ヲ執レリ但シ之
レカ爲國交上ニ重大ナル影響ヲ及ホスモノ
ニアラスト信セリ

二十一番(井上) 政府ト露國大使トノ話合ハ之
ヲ諒トス然レトモ露國相手ノ仕事故單ニ大
使トノ一片ノ對話ニ依リテ果シテ我意ヲ通
シ得ルヤ否ヤ甚タ疑念ナキ能ハス斯カル時
ノ爲日露基本條約モ存スルコトナレハ此ノ
際一層有效ナル具體的方法ヲ採ルコトヲ得
サルヤ伺ヒタシ

四番(田中) 未タ其ノ時機ニアラスト考フ未タ
政府力爲セリト云フコトヲ確認スルニ到ラ
ス若シ露國カ外交機關ヲ通シテ之ヲ行ハハ
直ニ臨機ノ處置ヲ執ルヘシ露國政府ト第三
「インターナショナル」トハ實質的聯繫ヲ有スヘ
キハ疑十分ナレトモ未タ確認スヘキ材料ヲ
發見セス

二十三番(石黒) 本案ハ極メテ重大ナルヲ以テ
種々質問シタシト考フ蓋シ委員會ハ傍聽ヲ
許サス又筆記ヲモ見ルコト能ハサレハナリ

議長(倉富)

御發言中ナルモ最早正午ト爲ルニ付

一先休憩シテ午後一時ヨリ再開スヘシ

聖上入御

(午前十一時五十五分休憩)

○

(午後一時再開出席員午前ニ同シ)

聖上臨御

議長(倉富)

之ヨリ午前ニ引續キ開會ス

二十三番(石黒)

本案ハ重要案件ナリト考ルニ

付御前ニ於テ恐レ多ケレトモ質問スヘシ(一)

審査報告ニ依レハ前記ノ犯罪事實ニ徴スル

ニトアリ檢舉ニ依テ如何ナル事實カ明カニ

ナリタルヤ(二)本案ト同趣旨ノ法律案ヲ第五

十五回帝國議會ニ提出シ既ニ二回程委員會

ヲ開キタルニ拘ラス之ヲ握潰シト爲シタル

理由如何(三)本案ノ裁可公布セラレタル後若

シ次ノ帝國議會ニ於テ之ヲ承認セサルトキ

ハ如何ナル處置ヲ執ラムトスルヤ(四)若シ議

會カ之ヲ承認セサル場合ニ於ケル現行治安維持法ノ效力如何(五)本案ハ一定ノ行爲者ニ對シ極刑ヲ課セムトスル法案ナルカ政府敢テ之ヲ國民ノ意思ニ問フコトナク專制的ニ議定シ去ルヲ相當ノ處置ナリト考フルヤ(六)過激思想ノ取締ニ付テハ將來細目ノ注意ヲ加フルニ怠リナカルヘキハ勿論ナルカ之レ迄ノ取締狀態ハ如何例ヘハ輸入出版物活動映畫藝術工場等ニ付一二ノ事例ヲ掲ケテ說示サレタシ

十二番^(原) 今回ノ檢舉ニ由リテ本案ノ必要ヲ認メタル理由ニ付答辯スヘシ
先ツ日本共產黨カ如何ナルモノナルカヲ說クヲ順序トスヘシ日本共產黨ハ名ハ日本共產黨ナレトモ露國ニ於ケル國際共產黨第三「インターナショナル」ノ日本支部トシテ成立シタルモノニシテ世界ノ政治革命ヲ目的トスルモノナリ今其ノ證據トシテ彼等ノ祕密文書ニ記述スル所ヲ申述フヘシ

日本共產黨ハ國際共產黨ノ日本ニ於ケル一

支部ナルヲ以テ其ノ當然ノ義務トシテ國際
共產黨ノ指揮ニ從ヒ世界革命ノ實ヲ舉ケサ
ルヘカラス而シテ彼等ハ曰ヘリ日本ノ支那
出兵ハ支那ノ革命即チ世界ノ革命ヲ妨害ス
ルモノナルヲ以テ我等ハ之ニ反對スルモノ
ナリト

日本共產黨ノ主要ナル政綱ヲ述フレハ次ノ
如シ

- 一、君主制ノ廢止、民主共和制ノ樹立
- 二、議會ノ解散

三、一切ノ反勞働者農民法ノ撤廢

四、天皇地主等ノ土地ノ無償沒收

五、ソヴィエトロシア國ノ防衛

六、支那革命ノ不干渉

七、殖民地ノ完全ノ獨立

君主制ノ廢止ノ説明ハ實ニ恐懼ニ堪ヘサル
所ナルモ彼等ノ謂フ所ニ依レハ君主制ハ日
本ニテハ天皇首長ト爲リテ樞密院、貴族院ヲ
統括シ更ニ天皇ハ兵馬ノ大權ヲ握リ參謀本
部、軍令部ヲ設ケテ之ニ從事セシメ司法權ハ

天皇ノ名ニ於テ裁判所之ヲ行ヒ行政權ハ各
省長官天皇ノ下ニ隸屬シテ之ヲ行ヒ立法權
ハ議會ノ協賛ニ依リ天皇之ヲ行フモノナル
カ天皇ハ畢竟地主カ小作人ヲ抑壓スル必要
ノ爲ニ設ケラレタルモノニシテ天皇アルコ
ト、樞密院、貴族院アルコト、兵馬ノ權等ハ孰レ
モ君主制ノ立派ナル表現ニ外ナラス而シテ
此等ノ機關ニハ皆資本家ノ勢力多分ニ入り
居リ所謂「ブルジョワ」ノ機關ナリ故ニ先ツ天
皇ヲ廢シ樞密院、貴族院ヲ廢止シ議會ヲ解散

シ民衆ノ手ニ兵馬ノ權ヲモ握ルニ非サレハ
到底「プロレタリア」ノ政治ハ行ハレ難シ即チ
君主制ヲ廢シ民衆ノ手ニ政治ノ全權ヲ收ム
ルコトカ民主政治ノ第一歩ナリトノ兇惡非
道ナル言說ヲ唱ヘ更ニ彼等ハ戰爭反對對支
不干渉ヲ叫ヒ來ルヘキ戰爭ハ當然階級戰爭
ナラサルヘカラス吾人ハ世界ノ勞働者ヲ總
動員シテ此ノ戰爭ニ打克タサルヘカラスソ
ヴェト露西亞ヲ守レ、支那革命ヲ守レ、帝國主
義大反對ト云フカ如キ其ノ思想ノ暴逆眞ニ

言語ニ絶シ全然帝國臣民タルノ觀念ナキ者ナリ

又彼等ハ秘密ニ中央機關紙赤旗ヲ發行セリ其ノ第一號ハ時恰モ衆議院議員ノ總選舉前ノ本年二月ノ發行ニ係リ主トシテ當面ノ問題タル總選舉ニ關スル記事ヲ掲ケ曰ク我等ハ我等ノ主義ニ最モ近キ者ヲ助ケテ議會ニ送ルヘシ但シ議會ニ依リテ立法ノ改善ヲ圖ラムトスルノ目的ニアラス之ヲ其ノ内部ヨリ破壊セムカ爲ナリト其ノ第二號ハ選舉終

了後ノ發行ナルヲ以テ此次ノ議會ヲ解散ニ導キ由テ全國的騷擾ヲ起サムコトヲ提唱シ又無産黨ノ議員カ帝國議會ニ入リタル以上ハ御大典ノ豫算ニ反對スヘシ天皇ヲ戴ク爲ニ七百萬圓ヲ消費スル金アラハ寧ロ之ヲ勞働者ニ與フヘク勞働者ハ之ヲ要求シ居レリ我等ハ斯カル豫算ニハ絶對ニ反對ナリ我等ハ我等ノ階級ノ利益ヲ保護スル爲ニ選出シタル議員ニ對シテ之ニ反對セムコトヲ強要セサルヘカラスト論セリ其ノ第三號ニ於テ

ハ頻ニ議會ノ解散ヲ主張シ且御大典ニ反對
シ社會民衆黨カ果シテ之ニ反對スルヤ否ヤ
ニ依リテ同黨カ民衆ノ敵ナリヤ否ヤヲ判明
スヘシト說ケリ又朝鮮共產黨ノ檢舉ヲ非難
シテ其ノ解放ヲ要求シ「勞農露國ヲ守レ」共產
黨萬歳ト記セリ其ノ第四號ニ於テハ大衆闘
爭ヲ宣傳セリ共產黨ノ大檢舉ハ此ノ第四號
ノ發刊後ニ斷行セラレタルモノナルカ其ノ
八日後ノ三月二十三日ニハ其ノ第五號ヲ發
行シ共產黨檢舉ノ非ヲ鳴シ斯カル暴行行爲

ニ對シテハ暴行行爲ヲ以テ對抗セサルハカ
ラスト煽動セリ又大檢舉後發行セル共產黨
ノ地方機關紙タル赤色信越ニ於テモ大不敬
ノ言辭ヲ弄シテ御大典ニ反對セリ其ノ言辭
ノ惡逆無道ナル到底之ヲ爰ニ述フルニ忍ヒ
ス以上ハ何レモ第五十五議會開會前ノ發行
ニ係ル雜誌ノ記事ナリトス
議會開會ノ當時ニ於テハ三月ノ大檢舉ニ依
リ共產主義運動ハ屏熄スヘシト思惟シタル
モ該黨ノ中心人物七名ノ内未タ逮捕セラレ

サル者四名アリテ今尚活動ヲ繼續セルモノ
ノ如シ而モ其ノ内ノ二三人ハ現ニ東京ニ潜
伏スル形跡アルニ拘ラス之ヲ檢舉シ得サル
ハ當局ノ甚タ遺憾トスル所ナリ六月二十五
日迄ニ檢舉セラレシ者ハ累計四百五十名ニ
シテ尚捜査中ノ者百二十六名ナリ然レトモ
共產黨ハ勿論秘密結社ニシテ社員名簿ノ存
スルナク只右ノ被檢舉者ヲ以テ黨員ノ大部
分タルヘキヲ推定スルノミ
彼等ハ前ニ述ヘシ如ク已ニ日本國民タルノ

考ナク而モ現ニ日本ノ領土内ニ於テ惡逆行
爲ヲ繼續シツツアル以上ハ之ヲ威嚇シ將來
斯カル妄動ヲ中止セシムル爲重刑ヲ以テ臨
ムノ必要アリト考ヘ本案ト同趣旨ノ法律案
ヲ議會ニ提出シタル次第ナリ然ルニ不幸ニ
シテ第五十五議會ハ之ヲ議了スルニ至ラス
シテ閉會シタルニ因リ緊急勅令ヲ以テ之ヲ
立法スヘキヤヲ考慮中ノ所共產黨ノ機關紙
赤旗ノ發見ニ依リ彼等ハ依然トシテ妄動ヲ
繼續シツツアルコト判明セリ即チ四月三十

日(議會開會中)ニ發行セル赤旗第八號ニハ議會ニ關スル論說ヲ掲ケ議會ヲ破壊スヘキ使命ヲ有スル無產黨議員カ恭シク天皇ニ拜謁シテ云々ト大不敬ノ言ヲ弄シ御大典ノ豫算案ヲ協賛セルコトヲ難詰シ何カ故ニ生命ヲ賭シテ議會大衆ニ對シテアジテーションヲ爲ササリシカト無產黨議員ニ對スル攻撃ヲ爲セリ又中國共產黨ニ學ヘ彼等ハ日本軍隊マテ闖入シテ打倒帝國主義ヲ宣傳セリトテ之ヲ賞揚シテ黨員ヲ激勵セリ又主義ヲ同ウス

ル者ハ總テ我等ノ黨員ナリ黨員名簿ナトアルコトナシト豪語シ勞働運動ノ究極ハ國體ヲ變革スルニアルヲ以テ力ノ行使ヲ必要トスト謂ヒ且「エジプト」ノ共產黨ニ對スル同情ノ記事ヲ掲ケタリ次ニ五月三日發行ノ同第十號ニハ支那出兵ニ反對シ軍隊ハ「ブルジョア」ノモノニアラス天皇ノ軍隊ナリト胡魔化シ居ルモノナリト農民ニ宣傳シ露國ヲ守レ出兵反對反對同盟ヲ守レ大衆行動ニ依テ收監者ヲ奪ヒ去レト煽動セリ同第十二號ニ於テ

ハ主トシテ治安維持法反對及出兵反對ノ記事ヲ掲載セリ之ニ依レハ同法ノ改正ハ彼等ニトリ相當ノ脅威ナルコトヲ認メ得ヘシ彼等ハ又海員爭議ヲ發展セシメ日本國民ヲ煽動シテ漸次國體變革ノ運動ニ導カムト圖レリ五月二十日ノ發行ニ係ル同第十三號ニ於テハ暴力革命ヲ力説シ之ヲ農村ニ宣傳セムトシ名古屋ニ支那出兵反對ノ大運動起レリト虛偽ノ報導ヲ爲シ大衆行動ニ依テ收監者ヲ取戻セト煽動セリ五月二十日發行ノ同第

十四號ニハ府縣會議員ノ選舉ニ關スル記事ヲ掲ケ我同人ハ須ク地方議會ノ内部ニ入テ之ヲ破壊セヨト煽動セリ同第十五號(五月三十日發行)ニハ合法的政黨ノ内部ニ侵入シテ之ヲ指導シ終ニ我目的ヲ達セサルハカラスト諭シ解散ノ災厄ニ遇ヘル我労働農民黨ヲ如何ニシテ再起セシムヘキカト謂ハリ同第十六號(六月四日發行)ニ於テハ今將ニ出兵セムトスル者ニ對シ「御前達ハアノ支那ニ殺サレニ行クノタ、家族ヲ見舞ツテヤレ、忠義タ勇

士タナトイツテ支那ニ殺サレニ行クノ夕御
前達ノ命ハ一錢五厘ト暴言ヲ吐ケリ
彼等ノ主義宣傳其ノ他ノ運動ハ機關紙ノ外
種々ノ名稱ヲ有スル文書ヲ以テセリ此等ノ
文書ノ探查未タ徹底セサルモ其ノ發行ハ相
當多數ニ上リ且廣汎ニ流布セルモノト認メ
サルヘカラス實ニ上來敘述スル所ノ如キ賣
國奴カ絶エス惡逆無道ノ思想ヲ忠良ノ國民
ニ宣傳シ其ノ國民的信念ヲ破壞シ國體變革
ヲ圖ラムトシツツアレハ是等ニ對シテハ嚴

然重刑ヲ以テ臨ミ之ヲ威嚇スルノ必要アリ
而シテ此ノ如キ刑罰法ノ改正ハ畢竟我同胞
ヲシテ犯罪處罰セラルルモノナカラシムル
ニ在ルヲ以テ速カニ緊急勅令ノ發布ノ必要
アリト信スルナリ

二十三番(石黒) 共產黨主義者ノ妄動ニ關シテ
ハ司法大臣ヨリ詳細ナル説明ヲ承レルカ其
ノ行動ハ第十六號迄ノ雜誌記事カ主要ナル
モノナリヤ雜誌ノ外此ノ如キ事ヲ爲セリト
云フ事實ナキヤ

十二番(原) 大衆煽動ノ爲諸種ノ名ニ於テ發行
セル文書ハ多數アリ

五番(小川) 曩ニ議會ニ於テ治安維持法改正案
カ審議未了ト爲リシコトニ付一言申上クハ
シ先般ノ議會ニ於テ審議未了ニ終リシハ甚
タ遺憾トスル所ナリ之ニ對シテ政府ハ何等
努力セサリシヤニ申サレタルモ政府ハ之ヲ
重要ナル法案ナリト認メ開會ノ劈頭ニ之ヲ
提出シテ其ノ通過ニ努力シタルモ不信任案
ノ爲再度停會ト爲リ政府トシテ出來ルタケ

努力ヲ爲シ司法大臣ハ法案ノ委員長トモ會
見シテ本案ノ必要ナル所以ヲ説明シ了解セ
ラレタル如ク見エタルモ反對黨ノ幹部ハ之
ヲ握潰スコトニ決シタル旨ヲ告ケ又中立議
員ヨリモ審議未了ト爲シタシトノ申出アリ
依テ反對黨ノ安達氏トモ會見シテ其ノ議了
方ヲ懇談セシモ握潰ニスルトノコトナリキ
而モ委員會ニ於テ實際上勝敗ノ鍵ヲ握ルモ
ノハ中立議員ナルカ其ノ内ニモ審議未了ノ
希望者アリシヲ以テ假令會期ノ延長ヲ奏請

スルモ審議未了ニ終ルハ必定ナリト認メタルカ故ニ敢テ會期延長ノ奏請ヲ爲ササリキ次ノ帝國議會ニ於テ若シ本令カ承認セラレサルトキハ如何ニスルヤトノ御質問ナルカ政府ハ何處マテモ努力シテ承認ヲ得ル考ナリ若シ不幸ニシテ之ヲ得ルコト能ハサルトキハ本勅令ハ爾後其ノ效力ヲ失フコトト爲リ現行ノ治安維持法カ復活スルコトト爲ル然シ議會ニ於テハ本案ヲ緊急勅令ヲ以テスルニ付テハ可否ノ論アルモ其ノ必要ニ付テ

ハ殆ト異論ナキヲ以テ緊急勅令ニシテ其ノ承認ヲ得サルコトアルモ國體ヲ危クスル行爲ニ對シ嚴罰ヲ課スルコトニ付議會力之ヲ等閑ニ付スヘシトハ考ヘラレス必スヤ普通ノ手續ニ依テ現行法ハ改正セラルルモノト信ス

次ニ不逞ナル徒輩ノ撲滅ニ付テハ如何ナル方法ヲ執ルヤト謂フニ其ノ原因遠ク且廣キヲ以テ各方面ニ互リ官民一致ノ戮力ヲ必要トスヘク政府ニ對スル樞府ノ御注意事項ノ

如キハ洵ニ適切且必要ナリト考フ斯カル不
逞思想ノ蔓延ハ一般國民ノ道義ノ觀念動搖
シ輕佻浮薄ト爲レルニ乘シ共產主義運動ヲ
煽動スル者アルニ因ルコト先般ノ檢舉ニ依
リテ彌々明白ト爲レルヲ以テ國本ヲ固クス
ルコト最モ必要ナリ之カ爲ニハ行政司法立
法ノ各方面ニ互リテ官民一致ノ協力ヲ必要
トスヘシ就中教育ノ改革ハ肝要ナリト信ス
學生ニシテ危險思想ニ感染シ動モスレハ其
ノ實行運動ニ移ルノ虞アリタル大學又ハ高

等學校ノ社會科學研究會新人會等ハ先般之
ヲ解散シ又教授ニシテ多年共產主義ヲ宣傳
シ其ノ實行ニ移レルモノアリシヲ以テ之ヲ
辭職セシメタリ教育ノ内容ニ付テモ銳意調
査スル所アリ又學校ノ教育ヨリモ社會教育
ノ大切ナルコトヲ感得シ一局ヲ新設シテ大
ニ社會教育行政ニ盡カスル考ナリ青年訓練
ノ事ニ付テモ一層力ヲ入レ青年ノ思想ヲ正
スコトニ努力スヘシ國民生活ノ安定ニ付テ
モ政府ハ貧困者救護法ヲ設ケ又陸海軍ノ下

士兵ノ給與モ尚一層ノ厚遇ヲ與ヘムトス一般人ノ階級的反目ヲ助長スルカ如キ行動ヲ戒ムルコトモ全ク同感ナリ又近來團體ノ暴力ニ依リテ我意ヲ通サムトスル小作爭議學校騒動勞働運動ノ取締上ニモ遺憾ノ點アリシヤト考フルヲ以テ之ニ對シテモ十分ニ取締ル方針ナリ又國際關係ハ今回ノ事件發覺以來深キ注意ヲ拂ヒツツアルモ今後ハ尚一層ノ注意ヲ拂フヘシ近年ノ我警察制度及其ノ働ニ付テハ甚タ遺憾ノ點アリ已ニ思想的

犯罪ヲ發生シタル今日ニ於テハ特ニ改革ヲ必要トスル處幸ニシテ曩ノ議會ノ協賛ニ依リ相當ノ豫算ヲ得タルヲ以テ此ノ際制度ヲ改善シテ其ノ機能ヲ十二分ニ發揮セシメムコトヲ期セリ圖書檢閲モ亦將來ハ十分ナル效果ヲ上ケ得ヘシト思料セリ

三十番(江木) 意見ヲ陳述シテ宜シキヤ

議長(倉富) 意見ノ陳述ハ後ニセラレタシ

二十九番(松室) 本案ノ内容ニ付テハ顧問官中一人ノ反對ナシトハ間違ナリ自分ハ十分ノ

反對意見ヲ有セリ現行治安維持法ニ國體ヲ
變革シ又ハ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ
目的トシトアリ政府ハ之ヲ如何ニ解セルヤ
此ノ用語ハ意味頗ル廣ク獨リ共產主義ニ止
ラス今日ノ所謂社會主義ヲモ含ムコトト爲
ルヘシ當局ノ所見如何余ノ見ル所ヲ以テス
レハ今日許サレ居ル社會民衆黨其ノ他ノ諸
黨ハ孰レモ曩ニ解散セシメラレタル勞働農
民黨等ト擇フ所ナク皆均シク共產黨ヲ以テ目
スヘキモノナリ此ノ事ハ彼等ノ政綱ヲ一讀

セハ自ラ明瞭ト爲ルヘシ其ノ謂フ所ハ合法
的手段ニ依ル社會ノ改革ニシテ一見温和ナ
ルカ如クナルモ歸スル所ハ共產主義ニ同シ
然ルニ一方ハ之ヲ禁止シ他方ハ之ヲ許ス理
由如何而シテ本改正案ニ於テ國體ノ變革ト
私有財産制度ノ否認トヲ區別スル理由奈邊
ニアリヤ余ノ見解ニヨレハ私有財産制度ヲ
否認スル結果ハ國體ヲ否認スルニ到ルモノ
ナリ之ヲ區別シタルハ何カノ間違ニ非サル
ヤ尤モ現行法通りナレハ之ヲ區別スルモ何

等實害ナキモ本改正案ニ依レハ此ノ兩者ニ
對シテハ別異ノ刑罰ヲ課スルヲ以テ此ノ區
別ハ重大ナル關係アリ余ハ斯カル區別ヲ爲
スコトニ反對ス
五番(小川) 本案ノ内容ニ付テハ殆ト反對者ナ
シト認ムト謂ヘルハ衆議院ニ付テノ事ナリ
若シ顧問官ニ付テ謂ヒシトセハ之ヲ取消ス
ヘシ
十二番(原) 煎シ詰ムレハ無產黨ノ目的ハ同一
ナリ然ルニ唯獨リ勞農黨ヲ禁シテ社會民衆

黨等ヲ禁セサルハ如何トノ御質問ナレトモ
後者ノ掲クル政綱カ適法ナル以上之ヲ許ス
ノ外ナク違法ノ事實アリタルトキハ其ノ事
實ニ基イテ之ヲ取消スノ外ナシ余ハ嘗テ社
會民衆黨ノ黨首カ明治大帝ノ御製ヲ引用シ
テ感泣セシコトヲ共產黨カ攻撃セシコトヲ
聞キテ矢張日本國民ナリト考ヘタリ次ニ國
體ノ變革ト私有財産ノ否認トヲ區別スルハ
解シ難シトノコトナルモ事實上ノ行動ハ免
モ角主義トシテ兩者ハ獨立スルモノト考フ

ヘク從テ之ヲ區別スルモ必シモ不可ナラス
ト信ス我國ニ於テモ古來土地ハ總テ國有ト
爲シタル制度アルノミナラス同一ノ行爲ニ
シテ兩個ノ罪名ニ觸ルルトキハ重キニ依テ
處斷スルヲ以テ何等妨ケアルコトナシ

二十九番(松室)

司法大臣ノ言ハルル私有財産

制度ノ否認ト余ノ夫トハ意味異ルト考フ私
有財産制度ノ否認トハ土地ノミナラス總テ
ノ財産ノ私有ヲ否認スルノ義ナラサルヘカ
ラス

十二番(原)

余ハ總テノ土地ヲ國有トシタル大

化ノ法制ハ財産即チ土地ナリシ時代ニ行ハ
レタルヲ以テ私有財産制度ノ否認ト同様ナ
リト考フ共產主義共和國タル露國ニ於テモ
總テノ財産ニ對スル私有權ノ否認ハ爲ササ
ルナリ

十九番(久保田)

鐵道大臣ノ御説明ハ各省ノ行

政ニ關シ而モ其ノ既往將來ニ互レルカ右ハ
大臣單獨ノ所見ナリヤ又ハ内閣ノ所見ナリ
ヤ承知シタシ本官ハ極刑ヲ盛レル本案ノ如

キ重大法案ヲ今急イテ制定スルノ必要ナシ
ト考フル者ナリ假問ス現行治安維持法ノ制
定ニ依リテ何等ノ效果アリシヤヲ暴戾不逞
ノ徒ハ反テ益増加セルニアラスヤ刑法素ヨ
リ其ノ要ナシト言ハサルモ尚他ニ幾多ノ大
切ナル施設アルヘク各自一致之ニ當ルトキ
ハ必スヤ本案ノ制定以上ノ效果アラム強イ
テ天下ノ物議ヲ排シテ急遽斯カル重大法令
ヲ制定スルノ必要ナキニアラスヤ
四番(田中) 鐵道大臣ヨリ只今陳述シタルコト

ハ總テ總理大臣ノ意思ヲ述ヘタルモノト考
ヘラレタシ

五番(小川) 危險ナル思想及行爲ニ對スル根本
的對策ニ關スル十九番(久保田)ノ御所見ハ全
ク同感ナリ然レトモ事犯防遏ノ對策ノ一端
トシテ嚴刑ヲ有スル治罪法ノ嚴存スルコト
モ亦極メテ必要ナリト思惟ス今次ノ被檢舉
者ノ中ニハ曩ニ一旦檢束放免セラレタル者
ニシテ再ヒ不逞ノ所爲ニ出テタル者少カラ
ス思フニ之レ畢竟刑罰ノ威力ノ足ラサルモ

ノト認メラルルヲ以テ此等ノ徒輩ニ對シテ
ハ死刑ノ存在ノ非常ナル效果アルヘキハ爭
フヘカラス又他面ニ於テハ共產黨ノ恐ルヘ
キモノナルコトヲ現示シ思想批判ノ標準タ
ルノ效アルモノト信スルナリ
二十一番(井上) 本案ハ緊急ヲ要ストノコトナ
ルモ此ノ如キ重大ナル法案ハ勅令ニ依ラス
臨時議會ニ提出シテ其ノ協賛ヲ求ムルカ當
然ナリト解ス政府ノ所見如何

十二番(原) 憲法第八條ニハ「公共ノ安全ヲ保持

シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由
リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘ
キ勅令ヲ發ストアリテ緊急勅令ヲ出スニハ
帝國議會ノ閉會ノ場合ナルコトヲ要スルモ
帝國議會ヲ召集スルヲ要セサルヲ以テ之ヲ
召集セサルモノナリ

三十番(江木) 本員ハ先ツ委員長ノ報告ニ付テ
意見ヲ述ハム本員ハ任ヲ樞密院ニ受ケシ以
來這次ノ如キ奇妙ナル報告ニ接シタルコト
ナシ其ノ所謂警告ノ一項ヲ見ルニ「政府ハ曩

ニ本案ト同趣旨ナル治安維持法中改正法律
案ヲ第五十五回帝國議會ニ提出シ緊急ノ必
要アルニ拘ラス議會ヲシテ之カ審議ヲ盡サ
シムル爲會期延長ノ如キ適宜ノ處置ヲ講ス
ルコトナク徒ニ之ヲ未議了ニ終ラシメタル
ノミナラス爾後荏苒月餘ノ日子ヲ隔テタル
今日ニ至リテ漸ク本案ヲ以テ斯ノ改正ヲ行
ハムトスルハ其ノ舉措甚タ當ヲ得サルモノ
ト謂ハサルヘカラスト果シテ然ラハ何ソ其
ノ當ヲ得ルモノト爲ササルヤ若シ夫レ議會

ノ會期ヲ延長シテ其ノ議決ヲ求メス憲法第
八條ニ基キ僅ニ十幾名ノ顧問官ニ依テ之ヲ
可決スルコトヲ得ルモノトセハ帝國議會ハ
全ク無用タルヘシ然レトモ我憲法ハ此ノ如
キコトヲ豫期セルモノニアラス司法大臣ノ
御答辯ニ議會閉會中トアルハ委員ノ多數ト
同シク餘リニ第八條ノ文字ニ拘泥シタル考
ナリ憲法第八條ハ此ノ如キ場合ニ之ヲ適用
スヘカラス現ニ議院ニ於テ未議了ニ終ラシ
メタル法案ヲ樞密顧問ノ議ニ付シ立法スル

カ如キハ議會ノ否認ナリト謂ハサルヘカラ
ス此ノ法案ノ成立カ假令十日廿日遅延スル
モ何ノ支障カ之アラム宜シク國民ノ代表タ
ル議會ニ於テ之ヲ議決セシムヘキナリ鐵道
大臣ノ述ヘラレタル事情ハ洵ニ御尤ナレト
モ要スルニ事情ニ過キス先年若槻内閣ニ於
テ憲法第七十條ニ基キ立案シタル緊急勅令
案ヲ本院ニ於テ審議スル際議會召集ヲ不能
ナラスト爲シ其ノ召集ヲ行フヘキ旨ヲ論及
シタル際政府ハ若シ今議會ヲ召集セムカ我

財界ハ非常ニ混亂ニ陷ルハシト陳辯力メタ
ルコトアルモ是モ事情ニ過キス憲法ノ解釋
ハ元ヨリ斯カル事情ニ依テ左右スヘキモノ
ニアラス抑モ我憲法第八條ハ敢テ臨時議會
ノ召集ヲ禁止スルモノニアラス今日ノ如キ
必要ニ臨ミテコソ臨時議會ハ之ヲ召集スヘ
キナレ之カ憲法ノ眞精神ナリト信ス之レ本
官カ委員會ニ於テ本案ニ同意セサリシ所以
ナリ
之ヨリ本論ヲ述ヘムニ本官ハ本案ノ勅令ヲ

憲法第八條ニ依リテ發布スルコトニハ不同
意ナリ緊急ノ必要ナシト認ムルモノナレハ
ナリ蓋シ政府ノ考モ亦茲ニ在リシコトハ衆
議院ノ速記ニ依ルモ司法大臣カ一言モ緊急
ノ法案ナルコトヲ述ヘサリシコト及法案自
體ニ於テ特ニ施行期日ヲ掲ケス即チ公布後
二十日ニシテ施行スヘキ普通ノ法律ノ例ニ
依リタルニ見テ明白ナリ然ラハ特別議會後
ニ緊急ノ事情發生シタルヤト云フニ政府ノ
説明ニ依ルモ唯單ニ出所不明ノ雜誌カ引續

キ發行セラレタル外何等變リタルコトヲ認
メス而シテ此等ノ事實タルヤ司法大臣モ議
會ニ於テ今後モ斯ノ如キ事件ハ出來スルモ
ノト考フルカ故ニ本改正法案ノ必要アリト
述ヘタルカ如ク當時ヨリ豫期サレタル事柄
ニシテ何等緊急ノ新事情ト云フヘカラサル
ハ勿論ナリ又之ヲ治安維持法ノ性質ヨリ考
フルモ冬ノ議會ヲ待ツコト能ハサル程ニ急
ヲ要スルモノトハ思惟シ難シ畏レ多ケレトモ
皇室ニ關スル罪及内亂ノ罪ニ關シテハ夫々

刑法ノ規定アリ又皇國ハ國ヲ肇ムルコト宏
遠ニ徳ヲ樹ツルコト深厚ニシテ次ノ議會迄
治安維持法ノ改正ヲ待ツコト能ハサル程脆
弱ナル國體ニ非ス明治大帝ノ國體觀念ノ涵
養ニ御心勞アラセラレシコトハ實ニ深甚ナ
リキ明治ノ初年ニ於テハ鎖國ノ夢俄カニ破
レテ急激ナル改革甚タ少カラス明治五年學
制發布ノ際ハ佛國ニテ出來タル小學教科書
ヲ用ヰテ全ク「バイブル」ノ教義ヲ容レ中學ニ
於テハ「アメリカ」ニテ出來タル共和主義基督

教主義ノモノヲ用ヰ又地方ニ於テハ佛國民
法ヲ以テ修身書ト爲セルモノアリキ加之上
流社會ニハ「ルソ」ノ民約說流行シ殆ト自由
ノ亂用ヲ是レ競フノ有様ニシテ大帝ノ叡慮
ヲ惱シ給ヒシコト一通ナラサリキ其ノ後文
部大臣ハ教員心得ナルモノヲ發布シテ人ヲ
導キテ善人タラシムルハ多識ナラシムルヨリ
更ニ緊要ナリ教員タルモノハ道德教育ニ力
ヲ用ヰ君ニ忠ニ國ヲ愛シ云々ト云ヘリ大帝
モ之ヲ御覽シイト御満足ニ思召サレシトノ

コトナリ此ハ當時一等屬ナリシ本官ノ執筆
スル所ナルカ其ノ事天聽ニ達シ無上ノ面目
ヲ施シタルコトアリ次テ明治十四年ニ到リ
テ教則ノ改正ヲ爲シタルカ其ノ改正案ノ御
手許ニ達スルヤ日曜日ナルニモ拘ラス御政
所ニ出御アリ侍從長ヨリ起案者タル本員ヲ
呼出シ其ノ第一項ヨリ逐條侍從長ヲ以テ御
下問アリシカ歴史ノ所ニ到リテ日本ノ歴史
ニハ戰爭多キカ斯ルコトニテ尊王愛國ノ觀
念ヲ養成スルコトヲ得ヘキヤ戰爭ヲ好ムニ

至ルコトナキヤ建國ノ事實勤儉ノ事例其ノ
他適當ノ事例ナキニ非ルヘシ再考シテハ如
何トノ御上意アリ恐懼直ニ退下シ小中村清
矩等ト相談ノ上建國ノ大業ニ筆ヲ起シ夫々
適當ニ内容ヲ修正シテ天覽ニ供シタルニ是
レ亦非常ニ御満足遊ハサレタリ當時ハ國內
頗ル不穩ナルモノアリシカ大帝ハ地方御巡
幸ヨリ還御ノ即日即チ同年十月十三日ノ暮
夜御前會議ヲ召集セラレ翌十四日國會開設
ノ詔勅ヲ發セラレ翌年幼學綱要並軍人勅諭

ヲ又同二十三年教育勅語ヲ下賜セラレ殊ニ
憲法ノ發布ニ由リ愈民心ノ歸向定マリ國體
ノ觀念明徴ト爲レリ然ルニ世界大戰後露國
ニ革命アリ共產主義ヲ實行セルモ何等見ル
ヘキ結果ナク各國ハ何レモ之ヲ蛇蝎視セル
ノ現狀ナリ假令一時國民ノ思想ニ多少ノ動
搖ヲ來スモ彼ノルソノ民約說ト同シク雲
散霧消スヘキヲ信シテ疑ハサルナリスノ如
キ惡逆非道ノ思想及行動ハ元ヨリ之ヲ撲滅
セサルヘカラス之ニ對スルニ極刑ヲ以テスル

元ヨリ不可ナシ唯極刑ヲ認ムル立法ヲ樞密
院ニ於テ多數決ニ依リテマテ強行スルノ必
要ナク又其レ程ノ緊急ナル必要ナシト思惟
スルモノナリ時恰モ大赦減刑ヲ見ルハキ大
禮前ニ於テ強テ斯カル極刑法ヲ發布スルモ
其ノ效果ニ付テハ大ニ考慮ヲ要スルモノア
リ之ヲ例ヘハ彼ノ大逆犯人タル幸徳ノ遺族
ヲ教育シタル知人ノ談ニ聞クモ如何ナル努
力モ彼等ヲ教化遷善セシムルコト能ハス僅
ニ姉妹ノ一人ノ外何レモ共產思想ニ陶醉セ

リトノコトナリ兎角主義者ヲ極刑ニ處シタル後ハ宜シカラサルヤノ感アルヲ以テ此ノ如キ法ノ制定ニ際シテハ最モ慎重ノ態度ヲ持シ先ツ國民一般ヲシテ極刑已ムヲ得ストノ感念ヲ持タシムルコトカ必要ナリ從テ宜シク之ヲ國民ノ代表タル帝國議會ニ付議スヘキナリ加之我國體ハ今日急ニ緊急勅令ヲ以テ治安維持法ヲ改正セサレハ之ヲ維持スルコトヲ得サルカ如キ脆弱ノモノニ非サルニ拘ラス今強イテ急遽緊急勅令ヲ發布シテ

昭和ノ聖代ニ一ノ汚點ヲ殘スコトアリテハ甚タ遺憾ナリ是レ本官カ政府ノ考慮ヲ切望スル所以ナリ

二十二番(平山) 本官モ本案ノ審査委員ノ一人ナリシ故ヲ以テ一言スヘシ本案ノ重要ナルコトハ言フ迄モ無ケレトモ問題ハ至テ簡單ナリ議會ノ會期延期ノ有無ハ本案ノ可否ヲ決スルニハ重要ナラス本官ハ國家ノ大局ヨリ見テ緊急勅令ニ依ルコトヲ可トスヘシト考フル者ナリ蓋シ政府當局ヨリ共產黨發展

狀況ノ報告ヲ聽クニ及ヒ一日ニテモ早ク之
カ防遏ノ方法ヲ講スルノ要アリト考フルカ
故ナリ本官ハ既ニ公共ノ安全ノ爲緊急ノ必
要アル以上憲法第八條ニ依リテ此ノ勅令ヲ
發布スルハ固ヨリ當然ナリト信スルヲ以テ
一日モ早ク本案ヲ實施スルニ到ラムコトヲ
望ム者ナリ敢テ多言ヲ用ヅルノ要ナシ

二十九番(松室)

本官モ本案ニ對スル反對意見
ヲ述ヘタシ抑モ本案ヲ決定スルニ考慮スヘ
キ點ニアリ一ハ緊急ノ必要アリヤ否ヤノ點

ニシテ他ハ案自體カ適當ナリヤ否ヤノ點ナ
リ動モスレハ樞密院ニハ調査ノ手足ナキノ
故ヲ以テ政府カ緊急ノ必要アリト認メテ證
據物件ヲ示ス以上之ニ從フノ外ナシトノ意
見ヲ有スル者アレトモ是レ誤ナリ本官ハ樞
密院ニハ其ノ有無ヲ認定スヘキ獨立ノ權限
アリト考フ而シテ政府ハ其ノ認定ノ材料即
チ政府ノ主張ヲ立證スヘキ證憑ヲ提出スル
ノ義務アルヲ以テ樞密院ハ唯之ヲ調査スレ
ハ則チ足り而シテ其ノ調査ノ結果カ人ニ依

リテ相同シカラスアルヘキハ當然ナ
リ本官ハ政府提出ノ材料ニヨリ反テ反對ノ
心證ヲ得タル者ナリ

憲法第八條ハ議會ノ開會中ニ起ラサリシ事
件ニシテ閉會後ニ突發シ緊急ノ必要アル場
合ハ緊急勅令ヲ發スルコトヲ得ル旨ヲ規定
セルモノナルヲ以テ本案提出ノ事由タル事
情ノ發生カ議會開會中ナルトキハ固ヨリ議
會ノ議決ニヨリテ立法スヘキハ當然ノコト
ナリ然ルニ本案提出ノ事由タル共產黨事件

ノ發生ハ議會ノ開會前ナリシ爲本案ト同様
ノ法律案ヲ議會ニ提出シタルモ遂ニ未議了
ニ終リタリ然ルニ拘ラス政府ハ之カ議了ヲ
圖ル爲會期延長ノ手續ヲ執ラス閉會後數十
日ヲ經過シタル今日ニ到リ緊急ノ必要アリ
ト稱シテ本案ヲ本院ニ提出セルモノナルカ
其ノ提出ノ事由タル事情ハ議會開會以前ヨ
リ繼續セルモノニシテ議會ノ閉會後ニ至リ
何等新規ニ緊急ノ必要ヲ生シタルモノニ非
ス之レ本官カ本案ヲ以テ違憲ナリト爲ス所

以ナリ

當局者ハ本勅令ノ發布ハ將來共產黨ニ加入
スル者ヲ阻止スルノ效力アリト云フモ法ハ
元來死物ニシテ之ヲ働カスモノハ搜查ナリ
搜查徹底シテ犯罪必罰ノ實アルトキ始メテ
法ハ眞ノ威力ヲ生スルモノナリ今日ノ如ク
搜查微力ナルトキハ死刑ヲ以テ臨ムモ犯人
ハ免レテ罪ナカラムコトヲ恃ミ敢テ新法ヲ
恐レサルヘシ之ニ反シテ搜查ニシテ徹底セ
ムカ現行法ヲ以テスルモ法威大ニ振ヒ次ノ

議會ヲ待テスト云フカ如キコトアルヘカラ
ス又司法大臣ノ述ヘラレタル事實ナラハ刑
法第七十三條及内亂罪ノ規定ニ依リテ之ヲ
處罰スルコトヲ得ヘキニ何カ故ニ強イテ治
安維持法ヲ改正セサルヘカラサルヤ其ノ意
ヲ解スルニ苦ム或ハ共產黨事件ノ如キモノ
ヲ内亂罪又ハ皇室ニ關スル罪トシテ罰スル
ハ國民ノ甚タ嫌フ所ナルノミナラス犯人ニ
於テハ反テ之ヲ以テ名譽トスルナキヲ保セ
ストノ考ニ因ルモノナラムモ其ノ考ハ不可

ナリ何トナレハ刑法ノ系統ハ爲ニ全ク破壊
セラルルノ虞アレハナリ
委員會ニ於テモ述ヘシ如ク佛國ニ於テハ共
産黨ノ結社ヲ許シ其ノ行動ニシテ一定ノ範
圍ヲ超ユルトキハ普通刑法ニ依リテ之ヲ處
罰スルモ五年以上ノ懲役ニ處スルコトナシ
但シ同國ニ於テモ過去百年以來無政府主義
共產主義ノ爲苦シメラレ來レリ然レトモ課
刑ノ酷ニ過クルハ害アルモ益ナシトノ見解
ヲ以テ之ヲ加重セサルモノナリ

又英國ニ於テモ大正十四年十一月頃共產黨
員十二人結合シテ或犯罪ヲ犯シタル事件ア
リシカ裁判所ハ内五人ヲ一年ノ禁錮ニ處シ
七人ハ將來謹慎スヘキコトヲ誓約スルトキ
ハ禁錮ヲ赦スト判決セル有様ニシテ決シテ
我國ノ如ク周章セス我國體ハ外來思想ノ爲
容易ニ破壊セラルルカ如キ脆弱ノモノニ非
ス社會主義ハ只青年等ニハ危險ナルモ事理
ヲ解スル者ニハ決シテ恐ルルニ足ラサルナ
リ然シ油斷ハ不可ナルヲ以テ十分搜查ノ方

ニカヲ盡サハ必スシモ刑ヲ重クセサルモ憂
フルコトナシト思フ
次ニ本案ノ内容カ完全ナリヤ否ヤニ付テ考
フルニ現行治安維持法ハ十分ニ施行セラレ
居ラス所謂社會主義無政府主義モ共產主義
モ共ニ其ノ第一條ノ規定ニ該當スルモノナ
レトモ此等ニ對シ同條ヲ適用セス日本勞農
黨社會民衆黨等ハ現在ニ於テハ甚シキ不逞
ノ行動ヲ認メサルモ其ノ目的ノ爲ニハ何時
暴行ニ出ルヤヲ測ルヘカラス從テ能ク此等

ノ結社ノ目的ヲ調査シ其ノ文書ヲ檢閲シ何
レモ犯罪ヲ構成スヘキ結社ナルコトヲ認メ
サルヘカラス曩ニ勞働農民黨ニ對シテ解散
ヲ命シタルハ共產主義ヲ奉スルモノト認メ
タルモノト解セサルヘカラサルカ前述ノ結
社モ亦實質上何等ノ差異ヲ存セス只其ノ目
的ノ現實ヲ稍遠キ將來ニ期スルノ點ニ於テ
相違アルノミ行懸リ上今遽カニ之ニ解散ヲ
命シ難シトスルモ之ヲ此ノ儘放任シ置クコ
トハ不可ニシテ英米佛國ト同様ノ道ヲ踏ム

コトヲ得サルモノナリト考フ

十九番(久保田)

本案ハ一日ヲ争ハス總理大臣

ハ陛下ノ日没後ノ還御ニ付テハ如何考ヘ

ラルルヤ本日ノ會議ハ之ニテ延期セラレテ

ハ如何

二十九番(松室)

延期スルコトニ願ヒタシ

四番(田中)

日中ニ還御アル様ニ致シタシ

議長(倉富)

本會議ヲ明日ニ延スコトニ付賛成

ノ各位ノ起立ヲ請フ

(起立者多數)

(平沼副議長及金子)

議長(倉富)

多數ト認ム就テハ本會議ヲ明日ニ

延シ本日ハ之ニテ閉會ス

聖上入御

(午後六時閉會)

議長男爵倉富重三郎

書記官長ニハ名流

書記官

堀江幸雄

武藤盛雄

樞密院會議筆記

一治安維持法中改正ノ件一二日

議

聖上臨御

出席員

倉富議長

平沼副議長

大臣

田中

內閣總理大臣
兼外務大臣

四番

小川鐵道大臣

五番

岡田海軍大臣 六番

白川陸軍大臣 七番

中橋商工大臣 八番

三土大藏大臣 九番

山本農林大臣 十番

望月内務大臣 十一番

原 司法大臣 十二番

久原遞信大臣 十三番

勝田文部大臣 十四番

顧問官

金子顧問官 十八番

久保田顧問官 十九番

富井顧問官 二十番

井上顧問官 廿一番

平山顧問官 廿二番

石黒顧問官 廿三番

珍田顧問官 廿四番

山川顧問官 廿六番

黒田顧問官 廿七番

松室顧問官 廿九番

江木顧問官 三十番

内田顧問官 卅一番

田 顧問官 卅四番

荒井顧問官 卅五番

河合顧問官 卅六番

齋藤顧問官 卅八番

鎌田顧問官 卅九番

關席員

皇族

雍仁親王 一番

宣仁親王 二番

載仁親王 三番

顧問官

伊東顧問官 十六番

九鬼顧問官 十七番

中村顧問官 廿五番

古市顧問官 廿八番

八代顧問官 卅二番

櫻井顧問官 卅三番

石原顧問官

卅七番

委員

前田法制局長官

黒崎法制局參事官

成毛内閣拓殖局長

秋田内務政務次官

潮内務次官

横山内務省警保局長

長岡社會局長官

小原司法次官

泉二司法省刑事局長

書記官長

二上書記官長

書記官

堀江書記官

武藤書記官

議長

(倉富)

之ヨリ會議ヲ開ク昨日ニ續キ

治安維持法中改正ノ件

ノ第一讀會ヲ繼續ス

二十九番

(松室)

昨日モ申述ヘタル通り現行治

安維持法ハ其ノ適用ヲ誤マラレ居レリ今日

認メラレタル社會民衆黨其ノ他ノ社會黨モ

究極スル所共產黨ト擇フ所ナキヲ以テ此等

ノモノモ現行法ヲ以テ取締リ得ルモノナリ

然ルニ事茲ニ出テス是レ法ノ適用其ノ當ヲ

得サルモノナリ余ハ治安維持法ノ必要ヲ認

メ從テ之ヲ毀損セシメサラムカ爲ニ死刑等
ノ重刑ヲ課セムトスル本案ノ改正ニ反對ス
ル者ナリ然ラハ何故ニ治安維持法ヲ以テ重
刑ヲ課スルヲ不可トスルカ元來同法ハ犯罪
ノ遂行ヲ鎮壓スル趣旨ニ非スシテ其ノ萌芽
ヲ艾除セムトスルモノナリ然ルニ之ニ死刑
無期懲役等ノ重刑ヲ定ムルハ法文廣漠ト爲
リ適用上不都合ヲ生ス即チ刑法第七十三條
國事犯其ノ他種々ノ犯罪此ノ内ニ包含セラ
ルルニ至リ他ノ法律ハ不用ニ歸スヘシ是レ

刑法ノ體系ヲ紊ルモノニ非スシテ何ソヤ加
之結社組織ノ發起人ノ如キ者ヲモ死刑ニ處
スルコトアラハ其ノ犯罪ノ程度未タ進マサ
ル者ナルニ因リ世間ノ同情却テ受刑者ニ集
マリ法ノ信用ヲ失フコトアルヘシ曾テ佛國
ニ於テ無政府主義者ヲ死刑ニ處シタル爲大
統領ヲ暗殺シタル者アリ此ノ者モ勿論死刑
ニ處セラレタルカ佛國ノ或刑法學者ハ此ノ
死刑ハ無政府主義ノ有力ナル一宣傳ト爲ル
コトヲ言ヘリ惡事トハ云ヘ主義ノ爲ニ殉セ

シ者トシテ世間ノ同情ヲ惹クコトアルヲ否
ムヘカラス而シテ此ノ類ノ事ハ他ニモ其ノ
例乏カラス大ニ戒心スヘキコトナリ又昨日
余ハ内閣諸公ニ對シ本案カ本來不可分ナル
ヘキ國體變革ト私有財産否認トヲ二分シ殊
ニ別異ノ刑ヲ定ムルハ立法其ノ體ヲ得サル
ニ非スヤト質問シタルニ司法大臣ハ一方ノ
重キ刑ヲ課スレハ差支ナシト答ヘラレタル
カ余ノ質問ノ趣旨ハ一方適用セラルルニ因
リ他方不用ト爲ルカ故ニ立法其ノ體ヲ得ス

ト謂フナリ

又治安維持法ヲ以テ死刑等ノ重刑ヲ課スル
トキハ搜查上大ナル障害ヲ來スヘシ余ハ威
壓ノ爲ニ死刑ヲ加フルヲ可トストノ論ニ對
シテ全然反對スル者ニ非ス其ノ幾分ノ效果
アルコトハ之ヲ認ムト雖又他ニ少カラサル
弊害ヲ伴フコトヲ知ル余ノ多年ノ經驗ニ徴
スルニ今回ノ共產黨事件ハ言フニ及ハス先
年ノ早稻田ノ共產主義事件幸徳一派ノ無政
府主義事件ノ如キ犯人ノ數多キ犯罪ニ在リ

テハ被告人ノ口述力最有力ナル搜查手段ト
爲ルモノナリ然ルニ共產黨無政府主義等ニ
加ハレル者ハ相當ノ智識ヲ有シ刑罰ノ如何
ヲモ知ル者ナルカ故ニ刑重キトキハ容易ニ
自白セサルヘキヲ以テ本案ノ改正ハ一方ニ
於テ威嚇ノ目的ヲ達スルト同時ニ他方ニ於
テハ搜查手段ヲ減スヘキコト確實ナリ即チ
其ノ利害ヲ考較スルトキハ寧口極刑ヲ課セ
スシテ共產黨ヲ盡スコト必要ナリ又法律ノ
運用上刑重ケレハ澁滯遲疑ヲ見其ノ低キ方

ヲ適用スルノ傾向ヲ生スヘシ現ニ社會民衆
黨日本労働黨等ノ如キ治安維持法ノ適用範
圍ニ入ルト認メラルルモノヲモ内務當局ハ
認可セルニ非スヤ余ハ憂國ノ念慮ニ於テ決
シテ同列ノ各位ニ劣ル者ニ非サルモ本案ノ
如キ重刑ヲ治安維持法ニ加ヘムトスル改正
ハ法文ノ體ヲ得サルカ故ニ之ニ賛同スル能
ハサルナリ
本案反對者ハ少數ナルヘキヲ以テ本案ハ結
局通過スヘシ余ハ勝敗ヲ眼中ニ置カス只

天皇陛下ノ御前ニ於テ本案ノ非ナルコトヲ
叡聞ニ達シ置カハ夫ニテ可ナリ樞密院之ヲ
可決セハ樞密院一體ノ責任ニシテ飽迄反對
ナル本官モ亦其ノ責任ヲ分ツヘキコトハ固
ヨリ之ヲ覺悟セリ但タ本案通過ノ結果ニ付
更ニ當局ノ御一考ヲ煩ハシタキコトアリ現
行法ニ於テハ刑輕キ力故ニ刑法ノ範圍ニ食
込マスシテ濟ムモ改正案ノ如ク死刑ヲ加ヘ
刑ノ範圍廣クナレハ刑法第七十三條ノ罪モ
内亂罪モ國事犯モ之ニ食込ムコトト爲ル此

ノ點ハ委員會ニ於テ司法大臣始メ當局ノ認
ムル所ナリ然ラハ治安維持法ト刑法トノ此
ノ重複關係ハ如何ニスルヤ此ノ問題ニ付テ
ハ新法ト舊法ト重複スルトキハ新法ヲ以テ
舊法ヲ改正シタルモノト見ルコト是レ法律
解釋ノ通義ナリ然ラハ刑法第七十三條モ國
事犯モ法文存スルニ拘ラス其ノ響少キコト
ト爲ルヘシ例ハハ刑法第七十三條ノ大逆罪
ヲ犯シタル者ハ當然死刑ニ處セラル現ニ先
年幸徳一派ノ無政府主義者ハ一時ニ多數死

刑ニ處セラレ威壓ノ點ヨリ見レハ大ニ效果
アリタリ然ルニ此ノ如キ刑法ノ法條ヲ消シ
テ刑ノ範圍ヲ廣ムルノ必要奈邊ニ存スルカ
殊ニ皇室ニ對スル罪ノ刑ヲ何故低下スルカ
ハ余ノ解スル能ハサル所ナリ此ノ點ニ關シ
委員會ニ於テハ政府當局ハ後日適當ナル修
正ヲ加フルノ意向ヲ有スルヤニ聞ケリ是ニ
於テ更ニ疑ヲ生ス何故ニ一般ニ對スル威壓
ヲ重クスルコトヲ先ニシ皇室ニ對スル罪ノ
刑ノ輕ク爲ルヲ是正スルコトヲ後ニスルカ

此ハ須ラク同時ニスハキコトナリ本案ノ緊
急勅令ヲ先ツ發布シ後日更ニ右ノ點ニ關ス
ル緊急勅令ヲ發布スルコトヲ得サルヘシ然
ラハ議會ノ開會ヲ俟タサルヘカラス其ノ半
歳ノ間ニ事件ハ起ラサルカト言フニ現ニ目
下起リツツアルナリ而シテ刑法ノ原則トシ
テハ新法ハ舊犯罪ニ及ハサルモノナルモ現
在裁判所ニ繫屬中ノ此ノ事件ニハ矢張新法
ノ效力及フコトト爲ルヘシ何トナレハ刑法
第六條ニ犯罪後刑ノ變更アリタルトキハ其

ノ輕キモノヲ適用スル旨ノ規定アリ更ニ同
第八條ニ刑法ノ總則ハ他ノ法律ニ於テ刑ヲ
定メタルモノニモ亦之ヲ適用スル旨ノ規定
アレハナリ然ラハ目下裁判所ニ繫屬中ノ事
件ハ豫審終結シ公判ニ付セラルルトキハ余
ノ意見ノ如クムハ刑法第七十三條ノ罪ニ該
ルヘキ者カ無期又ハ五年以上ノ懲役若ハ禁
錮ニ處セラルル結果ト爲ルヘシ結局ハ裁判
所ノ解釋ニ俟ツヘキモノナルモ少クモ此ノ
如キ疑義ヲ生セシムヘキ法律ノ改正ヲ何故

ニ爾ク急クヤ其ノ趣意不明ナリ
又近ク實施セラルヘキ陪審法ノ規定ニ依レ
ハ刑法第七十三條ノ皇室ニ對スル罪ハ陪審
ヨリ除外セラルルモノナルモ治安維持法ノ
罪ハ陪審ニ付セラルルコトト爲ル是レ皇室
ニ對スル犯罪ヲ陪審ヨリ除外セル主義ニ反
ス又皇室ニ對スル犯罪ハ裁判所構成法上大
審院ノ特別權限ニ屬シ第一審ニシテ終審ト
爲ルヘキモノナルモ之ヲ治安維持法ニ依リ
テ裁判スレハ大審院ノ權限ヲ離レ普通ノ三

審ノ手續ニ依ラサルヘカラサルコトト爲ル
此ノ如キ不都合ナル點ニ關シ曩ニ委員會ニ
於テ二上書記官長ヨリ質問アリタルニ對シ
當局ハ氣付カサルニ非サルモ今陪審法裁判
所構成法ヲモ緊急勅令ヲ以テ改正スルハ妥
當ナラサルニ依リ之ニ觸レサルコトトセリ
トノ答辯アリ此等ノ事ハ何レモ重大ナル問
題ナリ如何ニ急ヲ要ストハ云ヘ刑法第七十
三條其ノ他前述ノ諸法規トノ關係ヲ顧慮セ
ス此ノ際強テ緊急勅令ヲ以テ治安維持法ヲ

改正セムトスルハ余ノ甚タ不服トスル所ナ
リ余ハ諸君ト共ニ責任ヲ負フコトヲ厭フ者
ニ非サルモ希クハ御一考ヲ煩ハシタク茲ニ
内閣ニ再考ヲ求ムルノ動議ヲ提出ス

二十番(富井) 余ハ松室顧問官ノ動議ニ賛成ス
其ノ前ニ余カ原案ニ賛成シタル理由ヲ簡單
ニ申述フヘシ余ハ委員會ニ於テ本案ニ付當
局ニ對シ種々質問ヲ試ミ自己ノ意見ヲ定ム
ルニ迷ヒタルモ結局原案ニ賛成スルヲ穩當
ト考ヘタリ本案ニ對スル議論ノ主要ナル點

ハ憲法關係ニシテ即チ憲法第八條ニ適合ス
ルヤ否ヤノ問題ナリ約言スレハ緊急ノ必要
アリヤ否ヤノ一點ニ歸着スヘシ而シテ是レ
畢竟現下ノ時局ヲ如何ニ見ルカ何程ノ危害
状態アリト見ルカ之カ對策トシテ斯カル刑
罰法ヲ急速ニ設クルヲ要スルカノ事實認定問
題ナリ從テ人各々見ル所ヲ異ニスヘク緊急
ノ必要アリト認ムルニ於テハ斯カル勅令ヲ
設クトモ憲法違反ニ非ス之ニ反シ緊急ノ必
要ナシト認ムルニ於テハ本令ノ制定ハ憲法

違反ト爲ルヘシ而シテ其ノ必要ノ有無ヲ判
斷スルハ樞密院獨自ノ見解ニ依ルヘク決シ
テ政府ノ所見ニ從ハサルヘカラサルノ理ナ
シ然ラハ緊急ノ必要アリヤ否ヤニ付余ハ實
ハ其ノ判斷ニ迷ヒタリ事態ハ半年又ハ一年
後ノ次ノ議會ノ開會ヲ待チ得サル程緊急ノ
モノナルカ現行法ノ儘ニテモ或ハ差支ナカ
ラム併シ果シテ夫ヲ以テ安心シ得ヘキカ憂
慮ヲ要セサルカハ到底斷言出來サルコトナ
リ此ノ犯罪ハ其ノ目的ヨリ云ハハ最モ恐ル

ヘク最モ惡ムヘキ空前ノ大逆行爲ニシテ其
ノ性質ハ一種ノ危險性ヲ帶フ結社其ノモノ
ハ或ハ目的ヲ果サムトスル準備ニ過キサル
ヘキモ結局其ノ目的ニ進マムトスル危險性
ヲ有スルカ故ニ之ニ對シ百方防遏ノ手段ヲ
講スヘキハ當然ノコトナリ故ニ本案モ結社
ヲ以テ單ナル手段又ハ豫備行爲ト見スシテ
之ヲ獨立ノ犯罪ト認メ其ノ刑ヲ重クセリ本
案ハ此ノ如ク重大ナルモノナルカ故ニ半年
又ハ一年ノ後議會開會ヲ待テ之ヲ提案スル

ヲ穩當トスヘキモ一方ニ於テ危險狀態日々
深刻ニ進ムノ現況ナルニ照シ此ノ危險タニ
防遏シ得ルニ於テハ形式上之ヲ議會ニ付議
セサル缺點ハアルトモ實質上安心シ得ルコ
トヲ以テ勝レリトス余ハ敢テ政府ヲ盲信ス
ル者ニ非サルモ政府力其ノ重要政策トシテ
責任ヲ以テ立案シタルモノニシテ而モ憲法
違反ニ非ストセハ樞密院ハ之ニ反對セサル
カ穩當ナリト考ハタリ唯遺憾ナルハ世間ノ
誤解ニシテ世間ニハ吾々カ緊急ノ必要ナキ

コトヲ確信シナカラ何等カノ目的即チ政變
ヲ防ク爲賛成シタリトノ言ヲ爲ス者アリ余
ハ緊急ノ必要ナシトノ確信ヲ得ハ之ニ反對
スヘキモ其ノ確信ヲ得サルカ故ニ之ニ賛成
スルナリ政界ノ動搖ヲ防ク等ノ考ハ毛頭之
ナシ
次ニ政府ニ再考ヲ求メムトノ說アリ昨日モ
久保田顧問官ヨリ同說アリ之ニ對シ田中内
閣總理大臣ヨリ本案ハ十分考ヘタル上ニテ
立案シタルモノナルヲ以テ再考ノ餘地ナシ

ト謂フカ如キ辯明アリタレトモ余ハ飽迄今
一應政府ノ再考アラムコトヲ切ニ希望ス斯
カル案ハ慎重ノ上ニモ慎重ヲ加ヘ國家ノ安
寧ヲ保持スル上ニ於テ如何ニシテモ猶豫シ
難シトノ確信ヲ得ハ已ムヲ得サルモ今日ニ
至ル迄ノ政府ノ議會以來ノ行動ニ徴スルト
キハ夫程ニモ考ヘラレス尚暫時後ルルトモ
差支ナカルヘキヲ以テ松室顧問官ノ說ヲモ
考ヘ合サレ今一應考慮ヲ盡サレムコトヲ望
ム本案ハ法理論トシテハ憲法違反ト爲ラス

トスルモ成ヘク議會ノ議ヲ經ルヲ可トス然
ラサレハ法ノ權威ナク十分ニ行ハレサルノ
虞アリ諸方面ヨリノ反對ニ耳ヲ貸サス今強
テ之ヲ制定セハ益反感ヲ惹起シ却テ一層ノ
害ヲ激發スルヤモ測リ難シ大ニ考慮ヲ要ス
又議會ニ於テ後日事後承諾ヲ與ヘラルヘキ
ヤ否ヤニ付テモ憂慮ニ値スルモノアリ政府
ハ一旦提案シタルモノヲ撤回スルハ面白カ
ラスト謂フカ如キ體面論ハ之ヲ棄テ宜シク
再考セラルヘキナリ再考ノ上尚必要トアラ

ハ適當ノ修正ヲ加ヘテ之ヲ再出セハ可ナリ
然ラハ今日ノ如キ各方面ノ反對論モ自ラ消
滅シ國法トシテ權威アルモノヲ生スヘキナ
リ

議長(倉富) 二十番ニ確メタシ二十九番ハ本案
ニ付刑法第七十三條トノ關係ニ因リ再考ノ
動議ヲ提出セリ二十番ハ之ニ賛成ナリヤ
二十番(富井) 廣キ意味ニテ之ニ同意セリ

議長(倉富) 兎ニ角政府ニ再考ヲ求メ其ノ返答
ヲ聞カムト謂フニ在リヤ

二十番(富井)

本案ノ撤回ヲ求メ再考セシムル

ハ困難ナルヘキモ眞實ノ再考スルノミニテ
モ尚數日ヲ要スヘシ

議長(倉富)

二十九番提出ノ動議ノ趣意ヲ問フ

二十九番(松室)

余ハ此ノ改正案ニ對シ全部反

對ナリ刑法第七十三條トノ關係ハ特ニ重ヲ
置キテ論シタルニ過キス結局本案全體ニ付
再考ヲ求メムトスルナリ

議長(倉富)

反對ナラハ否決ト解スルコト當然

ナルヘキモ再考ノ語ヲ用ヅラレタルニ由リ

解釋ニ惑ヲ生セリ

十八番(金子)

本案ニ付テハ既ニ審査委員會ニ

於テ慎重丁寧ニ審議ヲ重ネ政府ニ質問ヲ爲
シ五對三ノ多數決ヲ以テ意見ヲ決定シタル
モノナリ今日ニ於テハ之ヲ可トスルカ否ト
スルカノ二途アルノミ然ルニ政府ノ再考ヲ
求ムトハ何事ナルカ

議長(倉富)

本案ニ付御諮詢ヲ蒙リタルニ對シ

本會議ニ於テ決定奉答スヘキハ可否ノ意見
ナルヲ以テ其ノ中間ノ意見ハ之ヲ採用スル

ニ由ナシ故ニ此ノ再考ノ動機ニ付テハ決ヲ採ラサルヘシ

二十七番(黒田)

本案ハ憲法第八條ニ依ル緊急

勅令案ナルカ審査報告書ニ記載セルカ如ク

憲法第七十條ニ依ル緊急處分ト異リ第七十

條ニ於テハ緊急ノ場合帝國議會ヲ召集スル

コト能ハサルトキト規定セルモ第八條ニ於

テハ議會召集ノ可能不可能ハ之ヲ問題トセ

ス故ニ苟モ事柄ニシテ緊急ヲ要スルニ於テ

ハ議會開會中此ノ如キ法律ニ代ルヘキ勅令

ヲ發シ得ヘク特ニ議會ヲ召集シテ立法措置

ヲ執ラサルモ毫モ差支ナシ從テ本案ニ付テ

ハ緊急ノ必要アリヤ否ヤヲ決スルヲ以テ足

ルヘシ然ルニ事ハ明白ナリ此ノ如キ不逞ノ

徒ノ出現ニ對シ十分ナル威嚇ノ方法ヲ設ク

ルノ必要アルコトハ何人モ異論ナカルヘク

此ノ如キ事態ニ應シ此ノ緊急勅令ヲ出スハ

適當ノ措置ト謂ハサルヘカラス只其ノ危險

徐々ニ來ルカ急激ニ來ルカハ不明ナルモ今

日既ニ其ノ端緒ヲ認メタル以上ハ豫メ之ニ

備フル所ナカルヘカラス故ニ此ノ對策トシ
テ政府カ其ノ責任ヲ以テ憲法第八條ノ緊急
勅令ヲ立案シタルニ對シ樞密院カ反對シ萬
一ノ事アラハ申譯ナキコトト考フ尤モ刑重
カラサレハ民服セスト謂フカ如キハ是レ上
乗ノ策ニ非ス余ハ今ヲ距ル十七年前即チ明
治四十四年三月貴族院ニ於テ江木久保田兩
氏等ト共ニ國民道德振興ニ關スル建議案ヲ
發議シ親シク其ノ提案ノ說明ノ任ニ當リ物
質的文明ノ漸ク進步シタル我國ハ精神的方

面ノ振興ニ大ニ努力スルノ必要ナル所以ヲ
力説シタルニ桂內閣總理大臣ハ全ク同感ニ
シテ將來益努力スヘキ旨ヲ以テ之ニ答ヘ貴
族院ハ同案ヲ委員付託トセス即決可決シタ
ルコトアリ此ノ如ク主トシテ教育ノ力ニ由
リ思想ヲ善導スルノ必要ハ今日ニ於テ一層
痛切ニ感セラルル所ニシテ審査報告中ニモ
此ノ意味ノ陳述アリ固ヨリ至當ノコトナル
カ此ハ一般的ノ問題ナリ今日ノ緊急ノ事態
ニ照シ之ノミヲ以テ處スルコト難シ新ニ苛

酷ノ刑ヲ加フルコトハ理論上面白カラサル
カ如キモ事實金甌無缺ノ我カ國體ヲ擁護ス
ル爲必要ナル以上已ムヲ得サルコトナリ政
府ノ責任トシテ萬遺憾ナキヲ期セサルヘカ
ラス惡思想ノ傳播ニ關シ外交關係ノ事ニ付
テハ政府ノ説明ニ對シ聊カ意ヲ安ムスルニ
足ルモノアリ只犯罪ノ搜查ヲ嚴密ナラシム
ルコトハ此ノ場合一層必要ナリト思惟ス如
何ニ新法ノ規定峻嚴ナルモ搜查不十分ナル
ニ於テハ其ノ效果ナカルヘケレハナリ故ニ

余ハ當局ニ於テ一層此ノ點ニ努力セムコト
ヲ切ニ希望ス

治安維持法中改正法律案カ第五十五回帝國
議會ニ於テ審議未了ト爲リタルニ政府トシ
テ會期延長ノ措置ヲ執ラサリシコトハ遺憾
ナルモ當局ノ説明ニ依レハ亦已ムヲ得サル
モノト認ムヘキカ如シ何レニセヨ既往ノ事
ノ善惡ヲ以テ本案ノ可否ヲ決セムトスルハ
誤レリ今本案カ憲法上適法ノモノタル以上
之カ成立ヲ是認スヘキナリ本官ハ以上ノ意

見ヲ以テ本案ニ賛意ヲ表スル者ナリ

議長(倉富)

之ヨリ暫時休憩スヘシ

聖上入御

(午前十一時五十分休憩ニ入ル)

○

(午後一時再開出席員午前ニ同シ)

聖上臨御

議長(倉富)

之ヨリ引續キ開會スヘシ

二十一番(井上)

本案ノ審査ニ關シ過日來委員

會ニ於テ各顧問官ノ努力セラレタルコトニ

對シ本官ハ深ク感謝ノ意ヲ表ス然シ乍ラ其

ノ結果即チ本案可決ノ意見ニ對シテハ賛成

ノ意ヲ表スルコト能ハサルヲ遺憾トス既ニ

委員會ニ於テ論議セラレタルカ如ク政府ニ

於テ先般特別議會ヲ延長シテ治案維持法中

改正法律案ノ通過ヲ圖ラサリシ點及緊急ト

稱シ乍ラ本案ノ御諮詢手續ヲ遲延セラレタ

ル點ニ付テハ本官ノ了解ニ苦ム所ナリ殊ニ
本件ノ如キ場合ニハ緊急勅令濫用ノ虞アリ
テ將來ニ惡例ヲ貽スノ懸念アリ現行ノ治安
維持法ニ相當ノ改正ヲ加ヘムトスル趣旨ニ
對シテハ本官敢テ反對ヲ表セサルモ本案ノ
如キ嚴刑主義ニ依リテ治安ヲ維持セムトス
ルモ果シテ能ク危險思想ヲ防遏シ得ルヤ否
ヤ大ナル疑問ニ屬シ本官ノ見ル所ヲ以テス
レハ遺憾乍ラ肯首シ難シ次ニ本案ハ憲法第
八條ニ依リ立案セラレタルモノナルモ同條

ノ要件即チ緊急ノ必要果シテ自曉ノ間ニ迫
レルカ是レ亦大ニ疑問ナリ政府ニ於テハ此
ノ際危險思想ノ取締ニ關シ緊急措置ヲ執ラ
サレハ如何ナル事態ヲ發生スルヤモ知レス
ト憂慮セラレタリトテ其ノ點ニ付縷々御説
明アリ一應御尤トハ思ヘトモ其ノ事態カ果
シテ緊急已ムヲ得サル程度ノモノ即チ憲法
第八條ニ適合セルモノナルヤ否ヤ本官ノ見
ル所ヲ以テスレハ其ノ緊急ナリト稱スル理
由薄弱ナルカ如シ又之ヲ緊急ト稱シ乍ラ今

日迄延引セラレタル事實ヨリ見ルモ大ニ疑
ナキヲ得ス殊ニ此ノ問題ニ付テハ輿論ノ強
硬ナル反對アルニ拘ラス之ヲ強行セムトス
ル本案ノコトナレハ俄ニ之ヲ是認シ難シ又
特別議會閉會後ニ於テ急迫ナル新事態發生
セリト認メ得ルヤモ大ニ疑問ナリ御大典モ
近ク行ハレムトス凡ソ各國ノ慣例ニ見ルモ
此ノ如キ一國ヲ擧ケテノ國家ノ慶事ニ際シ
テハ大赦サヘ行ハルルナリ然ルニ此ノ際嚴
刑主義ノ本勅令發布セラレタル曉其ノ民心

ニ及ホス影響如何却テ之カ爲反動思想ヲ誘
發セサルヤヲ恐ル共產黨ノ活動ハ現行ノ治
安維持法及刑法ニ依リ取締ノ道アルカ故ニ
今俄ニ本案ヲ制定スルノ必要ナシ況ヤ前陳
ノ如ク一刻ヲ爭フ程ノ急迫ナル事態アリト
モ覺エサレハ之ヲ緊急勅令ト爲ス理由十分
ナラスト認ム即チ本案ハ憲法第八條ノ要件
ヲ具備セス政府ニ聊カ無理アリト思フニ付
之ヲ緊急勅令ノ形式ニ依ラシムルハ妥當ナ
ラスト考ヘ本官ハ遺憾乍ラ之ニ反對ノ意ヲ

表セサルヲ得サルナリ

二十三番(石黒)

本官ノ如キ青年時代ニ於テ王

政復古ノ爲ニ身命ヲ賭シテ宣傳奔走シタル

者カ往時ノ民情ヲ回顧シ更ニ六十年後ノ今

日此ノ如キ法案ヲ必要トスルコトニ想到ス

レハ實ニ感慨ニ堪ヘサルモノアリ況ヤ本案

ヲ議スヘキ此ノ會議ノ一員タルヲヤ加之

聖上陛下ニハ昨日八午前十時ヨリ午後六時

ニ至ル長時間此ノ會議ニ臨御アラセラレタ

ルコトハ洵ニ恐懼ノ至ナリ本官ハ茲ニ滿腔

ノ誠情ヲ披瀝シ本案ノ内容ニハ敢テ反對セ

サルモ之ヲ緊急勅令トシテ發布セムトスル

コトニハ賛成スルヲ得サルコトヲ言明セム

トス昨日モ種々論議セラレタル所ナルカ政

府ハ曩ニ治安維持法中改正法律案ヲ帝國議

會ニ提出シ乍ラ其ノ會期ヲ延長セスシテ審

議未了ニ終ラシメタル後數箇月ヲ經タル今

日俄ニ本案ノ緊急勅令ヲ以テスルニ非サレ

ハ不逞ノ徒ヲ取締リ得スト言フト雖刑法及

治安維持法ノ規定アルニ拘ラス尚公共ノ安

全ヲ保持シ得ストハ如何ニシテ考ヘラルル
カ本官等ハ二千六百年ニ近キ尊キ歴史ヲ有
スル我カ國體カ今ヤ僅々數箇月ノ内ニ危殆
ニ陷ルヘシトハ信セス仍テ本官ハ議會ヲ重
ムシ本案ヲ重要視スルカ故ニ本案ハ緊急勅
令ノ形式ニ依ラス議會ノ協賛ヲ經テ制定セ
ラルヘキモノナルコトヲ確信ス加之本官ノ
痛心ニ堪ヘサルコトハ若シ本案カ此ニ可決
セラレ其ノ結果内閣大臣ヨリノ奏請ニ依リ
御裁可アラセラレ公布アリタル後ニ於テ議

會カ之ニ事後承諾ヲ與ヘサル場合ハ如何ニ
爲ルヤ 陛下ノ御裁可ニ成レル勅令ニ依リ
死刑ト爲ル者カ議會ノ爲ニ命救ハルルカ如
キ結果ヲ生スルコトト爲リ其ノ不都合ナル
ハ言フ迄モナク又此ノ如キハ不逞ノ徒ノ宣
傳ニ好資料ヲ供スル所以ニシテ事態寒心ニ
堪ヘサルモノアリ政府ハ如何ニ考ヘ居ラル
ルヤ本官ハ本案ノ制定ハ最モ慎重ヲ要スル
モノナルコト及議會ノ權能ノ重スヘキコト
ヲ考フルカ故ニ此ノ種ノ法案ハ宜シク之ヲ

帝國議會ニ付議スヘキモノトシ茲ニ本案ニ
反對ノ意ヲ表スルモノナリ

三十番(江本)

本案ニ付テハ兩日ニ亙リ會議續

行セラレ 天聽ヲ煩ハシ奉リ恐懼ニ堪ヘス

然ルニ本官ノ本案ニ對スル意見ハ昨日モ述
ヘタル通り之ヲ緊急ナリトスルモ憲法第八
條ニ依ルヲ得ス若シ既往ノ事ハ之ヲ問ハス
シテ緊急ノ事ハ憲法第八條ニ依ルトセハ憲
法ニ大缺陷ヲ生スヘシ政府カ議會ノ會議ヲ
回避シ緊急勅令ノ形式ヲ以テ本案ヲ制定セ

ムトスルハ假令憲法違反ニ非ストスルモ憲
法ノ精神ニ反ス況ヤ緊急ノ必要アラサルニ
於テヲヤ故ニ何レノ點ヨリスルモ本案ハ憲
法第八條ニ依ルヲ得サルコトハ昨日縷述シ
タル所ナルヲ以テ茲ニ之ヲ繰返サス只今日
御前ニ於テ尚少シク補足陳述セムト欲ス
ルコトアリ

現内閣ハ從來ノ内閣ト異リ閣僚中ニ思想問
題ニ付余ト交際親密ナル人々多數ヲ占ム然
ルニ此ノ内閣トシテ此ノ如キ急激ナル案ヲ

提出セラレタルハ本官ノ頗ル遺憾トスル所
ナリ大勢既ニ決セル上ハ如何トモスヘカラ
サルヘキモ案ノ成否ニ拘ラス現内閣ナルカ
故ニ余ハ之ニ對シ一言卑見ヲ開陳セサルヲ
得サルナリ思想問題ニ付テハ世上ニ思想ヲ
以テ思想ヲ導クヘシトノ論アリ是レ一應尤
モナル意見ニシテ夫ノ一時我カ國體ニ危險
ヲ及ホスヤノ懸念アリトセラレタルルソ
ノ民約說ノ如キモ今日ニ於テハ之ヲ口ニ
スル者ナキニ至リタルト同様今日ノ共產主

義モ將來必ス廢ル時期アルヘキヲ信ス乍併
決シテ樂觀ヲ許ササルカ故ニ十分之力防遏
ノ手段ヲ盡スノ必要アルコト勿論ナリ就テ
ハ思想ハ思想ヲ以テ之ヲ征スト謂ハトモ日
本人ト歐米人トハ各異ナル特性ヲ有スルカ
故ニ一概ニ其ノ通り行ハレ難シ故ニ思想問
題ノ對策トシテハ日本國民ノ特性ノ發達ヲ
圖ルヨリ急要ナルハナシ此ノ特性ニハ物質
的方面ト精神的方面トアリテ今ヤ物質的方
面ハ日本人ノ特性ト離ル可ラサルモノト爲

レルモ精神的方面ニ至テハ動モスレハ動搖
ヲ免レサルノ嫌アリ所謂物質的方面トハ例
ヘハ日本人ハ米食ヲ以テ育ツカ故ニ美味ナ
ル西洋料理支那料理ヨリモ却テ茶漬ヲ欲ス
ルカ如キ是レ日本人ノ特性ニ外ナラス而シ
テ精神的方面ニ於テハ例ヘハ歐米人ハ個人
主義ナルカ故ニ女嫁スレハ一家ノ財産ヲ異
ニシ其ノ母親貪ナレハ之ヲ下女同様ニ使ヒ
テ怪マス又米國ニ於テ曾テ一女子毛皮ノ外
套ヲ著用シテクリスマスノ宴會ニ同行スル

コトヲ或男ト約束シ父ニ其ノ外套ノ調製ヲ
請ヒタルニ外套出來サリシ爲其ノ男他ノ女
ト結婚シタリ彼ノ女ハ父ノ違約ニ依リ一生
ノ幸福ヲ失ヒタリト爲シ母ヲ證人トシテ父
ニ對シ損害賠償ノ訴訟ヲ提起シ勝訴ト爲リ
タルコトアリ此ノ如キハ日本人ヨリ見レハ
實ニ驚クヘキ事ナルモ彼國ノ風習トシテハ
之ヲ怪マス是レ歐米人ノ特性ノ日本人ノ夫
ト異ルカ故ナリ然ルニ近年一般ニ此ノ精神
的方面ノ特性ノ維持發達ニカムルコト甚ク

疎キヲ遺憾トス故ニ今後官民協力シテ此ノ
方面ニ最モ努力スルヲ要ス獨リ學校教育ニ
限ラス家庭社會ニ於テモ同様ナリ幸ヒ思想
問題ニ付同志ノ方々アル此ノ内閣ナレハ政
治上ニ於テ十分此ノ點ヲ考慮セラレタシ共
產主義ノ如キハ何レノ日ニカ消滅スヘキモ
我カ國民ノ特性維持ニカメサレハ復如何ナ
ル主義言論來襲スルヤモ知レス此ノ如キ我
カ國風ニ合ハサル主義ハ我ニ於テ之ヲ同化
スルノ力ナカルヘカラス之カ爲ニハ國ヲ擧

ケテノ事業トシテ我カ根本精神ノ養成ニ力
メムコト希望ニ堪ヘサル所ナリ然ルニ日本
人ハ皆口ヲ揃ヘテ我カ國體ノ世界無比天下
ニ冠タルコトヲ言フト雖外國ノ國法學ノ書
物中日本ノ國體ヲ論スル者アルヲ見ス英國
ノ如キ貴族カ武裝シテ國王ニ迫リ捺印セシ
メタルモノカ即チ彼ノ大憲章トシテ國ノ根
本法ヲ成セリ又米國ノ如キ本國ニ叛シテ國
ヲ成シタルモノヲ以テ果シテ芽出度キ國柄
ト謂ヒ得ヘキカ其ノ他或ハ侵略平定ノ結果

國ヲ成シタルモノアリ之ニ反シ我カ國ハ
天祖ノ詔勅ニ肇マリ王道ヲ以テ國ヲ治メ決
シテ霸道ヲ行ハス 天皇ハ歐羅巴ノ帝王ノ
如ク未タ曾テ國土ヲ私有セラレタルコトナ
シ而モ萬世一系君民一家族ノ如キ有様ハ理
想ヲ考ヘテモ及ハサル實ニ美シキ制度ニシ
テ國家ノ好模範トモ謂フヘキモノナルニ此
ノ事ヲ歐米ノ學者ノ論スル者ナキハ畢竟我
カ學者ノ力足ラサルカ抑又國民ノ努力足ラ
サルノ致ス所カ又之ヲ支那ニ見ルニ支那ノ

儒教ハ日本ニ傳ハリ日本ハ鎖國千有餘年ノ
間ニ之ヲ練リ上ケテ日本化セリ支那人之ヲ
知ラサルカ故ニ日本ノ萬世一系ノ國體ニ付
疑ヲ抱ク者アリ却テ造詣深キ學者ニシテ然
リ故ニ例ヘハ聖人ノ道ハ支那ニ於テハ賢者
ノ道ナルニ日本ニ於テハ之ヲ日本化セリト
聞キテ彼等ハ驚キ又彼等ハ日本ハ支那ノ家
族制度ヨリ論スレハ一家族ノ實ヲ具フル一
大國家ナルコトノ説明ヲ聞キ始メテ我カ國
體ヲ了解スルノ有様ニシテ余ハ曾テ支那ノ

某大學者ト論議スルコト約一年半ニシテ漸ク我カ國體ヲ了解セシメタルコトアリ此等ノ點ヨリ考フルモ我カ國體ヲ世界ニ知ラシムルハ容易ノ業ニ非ス須ク吾人ノ大ニ努力ヲ要スヘキ所ニシテ之ヲ民間ノ學界協會等ニ委ヌルモ到底十分ニ其ノ目的ヲ達シ得ヘシトハ考ヘラレス故ニ内閣諸公ニ於テハ國家ノ將來ニ考ヘ此ノ點ニ付深ク考慮セラレ何等カノ施設アラムコトヲ切望スル次第ナリ

尚生活ノ安定ヲ圖ルハ思想ノ惡化ヲ防ク道ナルコト委員長ノ報告ニモアリ是レ當然ノコトナルカ之カ爲失業者ニ業ヲ與フルコト固ヨリ必要ナルモ夫ノミニテハ尚未タ思想ノ惡化ヲ防クニ十分ナラス今日相當ノ智識階級ノ者ニシテ思想穩健ナラサルモノアリ一例ヲ舉クレハ大學卒業ノ醫學士ノ如キ成績優秀ナル者ト雖三四年間研究室ニ在リテ孜孜研究ヲ續クルニ收入ハ辛ウシテ車賃ヲ得ルニ過キサル程ナルニ一方富豪貴族ノ子

弟ニシテ半途退學シタル者カ平素遊樂ヲ恣ニスルノ有様ニシテ又現ニ警視廳ニハ高等試験合格ノ巡查幾十人ヲ算スト聞ク此等ノ智識階級ノ者ヲシテ満足セシムル爲ニハ單ニ糊口ニ差支ナキ程度ノ給與ヲ以テスルノミニテハ不十分ナリ貴族富豪顯官ノ行動ヲ慎マサルヘカラス例ヘハ花ヲ觀ルニモ衆ト共ニ樂ムニ於テ樂アルニ自動車ヲ驅リテ却テ多衆ノ愉快ヲ妨クルカ如キハ世間ヲ顧ミサル不心得ナル行爲ナリ又内閣大臣カ政治

ヲ議スルニ待合ニ於テシ而モ隱秘ノ間ナラハ兎モ角之ヲ寫眞ニ撮リ全國津々浦々ニ示スニ至リテハ國民愚ナリト雖此ノ如キ人ノ指導ニ由リテ國民思想ヲ矯正シ得ヘシトハ思ハサルヘシ現内閣ニ至リテ此ノ種ノ寫眞ノ新聞ニ掲載セラルルヲ見サルモ從來屢々其ノ例ヲ見タリ而シテ余ハ此ノ如キ人思想問題ヲ口ニセサレハ則チ可ナルモ苟モ之ヲ口ニスル以上却テ思想ノ惡化ヲ招クヘシト感シタリ故ニ富豪貴族ノ奢侈ニ流レ世間ヲ

憚ラサル行動ハ嚴ニ之ヲ慎ミ資産家ノ存在
モ國ノ爲ニ必要ナリトノ觀念ヲ一般ニ抱カ
シムル迄ノ努力ナカルヘカラス此ノ點モ思
想ノ惡化ヲ憂フル現内閣ニ對シ相當ノ考慮
ヲ求メテ已マサル次第ナリ
尚昨日モ軍隊ノ規律ニ關スル質問出タルカ
兵營ニ宣傳ビラヲ撒布シタル事實ノ如キハ
軍人勅諭ノ精神徹底ヲ缺キ又將校人ヲ訓化
スルノ資格ナキニ因ルモノニ非スヤ元來軍
人ニ賜ハリタル勅諭ハ一般國民ニ對スル道

徳ノ規準ニシテ五箇條ノ精神ハ一ノ真心ニ
在リ軍隊ニ宣傳ビラヲ撒クカ如キハ此ノ御
趣意ニ弛ヲ生シタルニ非サルカヲ恐ル故ニ
將來一層ノ注意ヲ加ヘ將校ハ自ラ模範ヲ示
シ兵卒ヲ教化スルノ實ヲ舉ケシムルニ至ラ
ムコトヲ希望ス

三十九番(鎌田) 本官ハ委員長報告ニ同意ヲ表
ス而シテ其ノ理由ニ付テハ富井、黒田、平山各
顧問官ト同一ナルカ故ニ茲ニ之ヲ贅セス只
政府ニ於テハ委員長報告中ニ述ヘラレタル

數項ノ決議ニ無論賛同セラルルコトト信ス
ルモ本官ハ孰レモ之ヲ必要ト考ヘ就中教育
ニ關シテハ根本的施設ニ最モ重ヲ置クヘキ
コトヲ力說セムトスル者ナリ惡思想ノ傳播
ニ付世界大戰後今日ニ至ル迄ノ經過ヲ見ル
ニ最初露國ハ西歐諸國ニ向テ宣傳ヲ試ミタ
ルモ結局獨佛英等ヲ侵蝕スルヲ得サリシモ
ノト認メサルヘカラス其ノ然ル所以ハ要ス
ルニ此等ノ國ニ於テハ國民ノ個人的生活進
歩シ常識ヲ具フル者國ヲ成セルカ故ナリ仍

テ露國ハ宣傳ノ方針ヲ變シテ東洋ヲ目指シ
先ツ支那ヲ從ヘ次テ他ノ諸國ニ及ホサムト
セリ此ノ考ハ露國トシテハ適當ニシテ既ニ
支那ニ於テハ其ノ成果燎原ノ火ノ如ク今ヤ
我カ國モ亦之ニ脅カサレムトスルノ有様ナ
リ之ニ由テ見ルモ惡思想ニ對抗スルニハ教
育ノ力ニ依ルヲ以テ最モ有效ナリトス即チ
我カ日本モ他ノ文明諸國ト同等ニ教育ノ進
歩ヲ圖ルノ必要アリ此ノ點ニ關シ余ハ先年
來江木氏等ト共ニ努力シタルモ内閣更迭等

ノ爲實現ヲ見ス常ニ遺憾ニ感スル所ナルカ
結局我カ國ニ於テモ一層人智ヲ進メ道德ヲ
涵養シ常識ヲ養成シ國體ノ尊キヲ知ラシメ
産業ノ合理化等科學的文化ヲ進メサレハ到
底他國ト競争ヲ全ウスルヲ得ス然ルニ在來
ノ義務教育ハ六年ニ止リ年齡十二歲以上ニ
及ハス此ノ年數年齡ヲ以テシテハ十分ノ教
育ヲ施シ得サルモノナルカ故ニ他ノ諸國ニ
於ケルカ如ク義務教育年限ヲ延長スルノ必
要アルコト勿論ナリ内閣ニ於テハ此ノ點ニ

付特ニ十分ノ御配慮アラムコトヲ切望ス
又思想問題ノ取締ハ容易ナラス如何ナル施
設便法ヲ設クルトモ絶滅ハ困難ナリ國民ノ
大多數カ健全ナラハ少數ノ不逞ノ徒アルモ
如何トモシ難カルヘキニ由リ多數ヲ健全ナ
ラシムルコト必要ナリ是レ少數ノ惡化ヲ防
遏スル所以ナリ惡思想ノ撲滅ハ今日英米ヲ
始メ各國共其ノ必要ヲ感スル所ニシテ露國
カ共產黨ヲ以テ國ヲ成シテ以來各國ノ方針
異リ從前ハ言論ノ自由ヲ絶對ニ許シテ弊害

ナカリシモノカ今日ニ於テハ然ラス露國ノ
如キ大國カ發源地ト爲リ軍費以上ノ資金ヲ
投シテ共產主義ヲ世界ニ宣傳スルヲ以テ他
國ハ又之ニ對抗シ宣傳戰トモ謂フヘキ有様
ヲ現出セリ米國ノ如キ極端ナル取締ヲ行ヒ
外國人ノ惡思想宣傳者ヲ船ニ乗セテ送り付
クルトノコトナルカ以前最モ自由ヲ標榜シ
居タル國ニシテ此ノ如ク態度ヲ異ニスルニ
至リタルハ尤ナルコトナリ乍併此等ノ取締
ハ合法的ナルヘキコト勿論ナリ思想取締ノ

重要ナル今日ニ方リ本官ハ政府ノ辨明ヲ聽
キ又他ノ顧問官ノ賛成說ヲ聞キ此ノ儘ニ放
任シ難シト考フ思想言論ハ自由ナリト謂フ
モ國家アリテノ後ノコトニテ國家ヲ呪ヒ其
ノ滅亡ヲ圖ルカ如キ殊ニ我カ尊キ國體ヲ毀
ケムトスルカ如キ者ニ對シテハ十分ノ威力
ヲ以テ之ニ臨マサルヘカラス故ニ此ノ際先
ツ緊急勅令ニ由リ此ノ恐ルヘキ暴逆ヲ抑壓
シ將來ヲ戒ムルコト必要ナリ今日ノ社會狀
態ハ變化セルナリ元來此ノ種ノ立法ヲ爲ス

ニハ國民ノ輿論ヲ重ムシ議會ノ議ニ付スヘ
キコトハ當然ナルモ帝國憲法ハ尚斯カル場
合ニ政府ノ責任ヲ以テ立法シ得ルコトヲ定
メタルモノト考フ依テ本官ハ本案ニ賛意ヲ
表スル次第ナリ

二十七番(黒田) 先刻陳述シタル通り政府力曩
ニ本案同様ノ法律案ヲ第五十五議會ニ提出
シタルニ拘ラス其ノ通過ヲ圖ラサリシハ遺
憾ナルモ其ハ最早過去ノ事ナレハ已ムヲ得
ス今日此ノ如キ緊急ノ必要アル場合ニ於テ

勅令ヲ發布スルハ差支ナシ只茲ニ一言附加
シタキコトアリ憲法義解ニ記述セルカ如ク
緊急勅令ヲ濫發スルコトノ不可ナルハ論ヲ
俟タサル所ニシテ徒ラニ緊急勅令ニ由ルハ
弊害アリテ將來ニ惡例ヲ貽スモノナルモ本
案ノ場合ハ全ク濫用ニ非ス相當ノ手續ヲ執
リ憲法ノ趣旨ニ叶ヘリト認ムルカ故ニ本官
ハ之ニ賛成スルナリ本官ハ冷靜沈著ニ判斷
シタル結果此ノ意見ニ到達シタルモノナリ
三十四番(田) 本官ハ本案ニ賛成ス然レ賛成シ

乍ラ尚深ク遺憾ヲ感スル點アリ我カ金甌無
缺ノ國體ハ國民舉テ誇トセル所ナルニ之ヲ
破壊セムト企ツル者ノ我カ同胞中ヨリ出テ
タルコト是レ其ノ一ナリ報告書中ニ記述セ
ルカ如ク此ノ問題發生以來當局ノ執リタル
措置甚タ緩漫ナリシコト是レ其ノ二十リ如
上ノ遺憾否寧口痛恨事アルニ拘ラス本官カ
本案ニ賛成セサルヲ得サル所以ハ事態ノ頗
ル急迫ナルモノアレハナリ赤化ノ火ハ露國
ニ燃エ始メテ忽チ東洋ニ及ヒ今ヤ早我カ軒

先ニ移ラムトスルノ有様ナルニ此ノ際一日
ノ偷安ヲ許スヘキニ非ス數年前本官カ臺灣
總督タリシ時露國カ東洋ニ於テ最先ニ赤化
ノ手ヲ染メタルハ廣東ナリキ即チ同地ニ於
テハ孫文一派カ共和國ノ旗揚ヲ爲ス以前ヨ
リ露國ハボロヂン外數名ヲ送り且一年二百
萬元程ノ資金ヲ投シタリトノコトナリ而シ
テ臺灣ハ支那民族ノ三分ノ一ハ廣東ヨリ移
住シタル者ナレハ赤化ノ傳播ヲ受ケムコト
ヲ恐レ百方警戒シタルニ幸ニシテ同地ニハ

惡影響ナカリキ其ノ後廣東モ赤化ニ懲リボ
口ヂン等ヲ追還シタリトノコトナルカ一旦
播キタル種ハ容易ニ消滅スヘカラス今日ニ
於テハ廣東上海等ノ支那人ハ露國人ト協力
シテ盛ニ東洋ニ赤化ノ宣傳ヲ行ヘルモノノ
如シ其ノ當時ヨリ確ニ露國人ハ日本ニモ手
ヲ著クル筈ナリシモノト思ハル日本ハ國體
異ルカ故ニ安心ナリト樂觀シ難シ既ニ廣東
ノ例モアリ又共產黨ニ對シ露國カ物質的援
助ヲ爲セル疑アルノミナラス現ニ本年檢舉

セラレタル黨員數百名ヲ算スト謂フニ至テ
ハ赤化ノ火ハ既ニ付キタルナリ即チボンブ
ノ用意ナカルヘカラス之カ爲ニハ現行ノ治
安維持法ヲ以テシテハ到底防止シ得ヘカラ
ス故ニ後レタリト雖爲ササルニ勝ルヲ以テ
此ノ際能フ限リノ方法ヲ講シ以テ極力共產
主義ノ宣傳ヲ防止セサルヘカラス之カ爲ニ
ハ官民一致ノ努力ヲ要ス此ノ見地ヨリシテ
本官ハ大體本案ニ賛意ヲ表スルト共ニ政府
ハ責任ヲ以テ赤化ノ防止ニ十分ノ力ヲ盡サ

レムコトヲ切望スル者ナリ

十二番(原) 本官ハ直接本案ニ關シ昨日來各顧問官ノ陳述セラレタル意見ノ内二三ノ點ニ付意見ヲ述フヘシ
此ノ治安維持法中改正案ノ内容ニ付テハ松室顧問官以外ノ各顧問官ハ敢テ異存ナキカ如シ尤モ松室顧問官モ大逆罪ニ及フ刑ノ適用ニ付治安維持法ノ規定却テ輕キヲ非難セラレタレハ國體變革ヲ企ツル者ニ極刑ヲ以テ臨ムヲ不可ト爲ス說ニハ非サルカ如シ故

ニ現行法ノ十年ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ヲ以テシテハ此ノ如キ犯罪ヲ威嚇スルニ足ラサルモノナルコトハ何人モ疑ナキ所ナルヘシ然ラハ問題ハ今日緊急勅令ヲ以テ此ノ改正ヲ行フコトカ適當ナリヤ又ハ次ノ議會ヲ俟テ其ノ手續ヲ爲スカ適當ナリヤニ在リト謂ハサルヘカラス昨日來ノ顧問官ノ御意見ノ如ク我カ國體ハ數千年來搖ナク殊ニ明治天皇ノ御精神ニ依リ益基礎固マリタレハ一年ニ足ラサル期間内ニ動搖ヲ來スカ如キコト

ハ夢寐ニモ想像シ能ハストハ何人モ同感ニ
シテ吾々政府當局者亦然リト考フ只茲ニ勅
令ヲ以テ之ニ臨マムトスル所以ハ他ニ在ラ
ス日本共產黨ノ行動ハ露國共產黨ノ指揮ヲ
承ケ世界革命ヲ目的トスルモノニシテ我カ
國ニ取リテハ非常ナル重大事犯ナリ松室顧
問官カ刑法第七十三條ニ依リ處罰スヘシト
謂ハレタル程ノ重大事犯ナリ若シ此ノ事犯
カ右刑法第七十三條ヲ以テ處罰シ得ストセ
ハ果シテ今後尚數箇月ヲ俟ツモ可ナリト謂

ヒ得ヘキカ現ニ國體變革ヲ企ツル不逞ノ徒
アリテ日々多少ノ活動ヲ持續セルニ非スヤ
松室顧問官ノ搜查十分ナラサレハ效ナシト
ノ御說御尤ナルモ今春來既ニ四百餘名ヲ檢
擧セリ檢擧ハ敢テ難事ニ非ス乍併彼等ニ對
シテハ十年位ノ處刑ニテハ出獄後必スヤ再
ヒ活動ヲ爲スヘキカ故ニ威嚇足ラサルナリ
將來事犯生スルヤ否ヤ不明ノモノナラハ次
ノ議會ヲ俟ツモ可ナラムモ現ニ犯行ヲ繼續
セル者アルニ方リ現行法ノ規定ヲ以テシテ

不充分ナルニ於テハ此ノ如キ事態コソ憲法
第八條ニ該當スルモノト信ス是レ本案ノ勅
令ヲ發令セムトスル所以ナリ或ハ御大典ヲ
前ニ控ヘ此ノ如キ立法ヲ爲スハ恩赦ノ例ニ
照シ權衡ヲ失ストノ說アルモ本官等ハ遺憾
乍ラ所見ヲ異ニス共產黨ハ固ヨリ御大典ニ
反對スル者ニシテ此ノ如キ不逞ノ徒ヲ取締
ルハ恩赦ト何等關係ナシ不逞ノ企ヲ爲ス者
ニ對スル處罰ヲ差控ヘ恩赦ノ精神ト合一セ
シメムト考フルカ如キハ誤レリ或ハ又此ノ

改正ヲ勅令ノ形式ヲ以テ發布スルコトカ
御盛德ヲ汚スカノ如キ說アルモ是レ亦我カ
憲法政治ノ下ニ於テ有リ得ヘカラサルコト
ナリ何ト爲レハ勅令ノ御裁可モ法律ノ御裁
可モ均シク 聖旨ニ出ツルモノニシテ其ノ
間甲乙ナク何レモ國務大臣之カ輔弼ノ責任
ヲ負ヒ只勅令ト法律トハ其ノ成立ニ與ル機
關ヲ異ニスルニ過キサルモノナレハナリ
次ニ松室顧問官ヨリ本案ノ事犯ニハ刑法第
七十三條ノ刑ヲ適用スヘキモノナルニ治安

維持法ハ却テ之ヲ輕減セムトスルカトノ御
質問アリタルハ甚タ遺憾ニ感スル所ナリ若
シ御意見ノ如ク本案カ刑法第七十三條ノ效
力ヲ減殺スト假定セムカ現行法ノミニテモ
既ニ其ノ效力減殺セリト謂ハサルヘカラス
此ノ關係ハ新舊規定ニ於テ同一ナリ若シ松
室顧問官ノ御説ヲ維持セムトスレハ刑法第
七十三條ノ極刑カ現行法ニ依リ一旦十年以
下ニ減セラレ更ニ本改正ニ由リ死刑ニ上ル
ハ寧口重クスル結果ト爲ルヘク之ニ對シ本

案ヲ非ナリトスルハ了解ニ苦ム所ナリ而モ
此ハ效力ニ變更アルコトヲ假定シテノ論ナ
ルカ本官ハ二者各其ノ適用範圍ヲ異ニスル
モノト見ルナリ尤モ國體變革ヲ企ツル者ノ
行爲刑法第七十三條ニ迄進マハ刑法第五十
四條ニ依リ重ニ從テ處斷セラルルカ故ニ治
安維持法ノ適用ナキニ至ルヘシ併シ國體變
革ヲ企ツルモ暴行脅迫ヲ伴ハサルモノハ刑
法第七十三條ニ所謂危害ヲ加ヘ又ハ加ヘム
トシタルニ當ラストハ學者ノ意見ノ一致セ

ル所ナリ從テ刑法第七十三條ニ依リ當然死刑ト爲ルカ故ニ治安維持法ニ依リ死刑トスルニ及ハストノ御説ニハ同意シ難シ刑法ト治安維持法ト相俟テ取締ノ完璧ヲ期シ得ヘキナリ

尚松室顧問官ヨリ此ノ種ノ重キ刑ハ適當ナラサルヤノ御説アリタルハ御意見トシテ之ヲ拜聽セリ成程或時代ニハ科刑ノ重キハ却テ弊害アルコトモアリタレトモ彼ノ幸徳事件ハ犯罪者ノ多數ヲ死刑ニ處シタル爲屏息

シタルコトハ松室顧問官往年ノ功績ニ非スヤ當時彼ノ如キ措置ヲ執ラサリセハ恐ラクハ兇徒益跋扈シタリシナラム況ヤ今回ノ事件ノ如キ全國的組織的ニ國家破壊ヲ企ツル者アルニ對シ之ニ臨ムニ十年以下ノ懲役等ノ威力ヲ以テシテハ到底不十分ナルヘキハ一層明ナリ然レハ現行法ノ規定アルカ故ニ本案ノ改正ハ其ノ必要ナシトノ意見ニハ同意シ能ハサルナリ

十九番(久保田)

昨日來慎重審議ヲ遂ケ最早賛

否ノ論モ盡キタルヘク此ノ際本案ノ可否ヲ
決スヘキ時期ニ到達シタルカ如シ本官ハ昨
日所見ヲ述ヘテ政府ノ再考ヲ求メ若シ其ノ
意見政府ニ容レラレスハ本案ニ同意シ難キ
旨ヲ述ヘ置キタリ本官ハ此ノ問題ハ頗ル重
大ナリト認メ此ノ重要問題ニ付政府樞密院
互ニ所見ヲ異ニシ又ハ本會議ニ於テ決議ノ
一致ヲ見サルカ如キコトハ甚タ残念ナリト
思フ抑樞密院ハ我カ憲法ヲ以テ特ニ至高顧
問府トシテ設ケラレ内閣ハ陛下ノ側近ニ

在リテ國務ヲ執リ樞密顧問ハ同シク側近ニ
在リテ御諮詢ニ答フ國務ニ關シテハ内閣ト
樞密院トハ均シク陛下ノ左右ニ在リテ輔
弼シ奉ルノ責任ヲ有スルコト言フ迄モナシ
是レ憲法義解ノ教フル所ナリ畢竟兩者ハ他
人同士ニ非ス故ニ些細ノ事ニ付意見ヲ異ニ
スルハ己ムヲ得ストスルモ本件ノ如キ未曾
有ノ重大事件ニ付意見ヲ異ニシ歸一スル所
ヲ得サルハ本官ノ深ク遺憾トスル所ナリ故
ニ本官ハ曩ニ委員會ニ於テ一委員トシテ政

府ノ同意ヲ求メムトシテ得ラレス次ニ委員
會ノ議ヲ以テ政府ノ意ヲ動力サムコトヲ欲
シタルモ是レ亦多數ノ賛同ヲ得ルニ至ラス
今又本會議ニ於テ同一ノ卑見ヲ吐露シテ政
府ノ再考ヲ求メ之ヲ得ラレサリシコトハ誠
ニ遺憾千萬ナリ然シ最早繰返スモ詮ナキニ
由リ茲ニ已ムヲ得ス本案ニ反對セサルヲ得
サルコトニ決心セリ同時ニ委員長ノ報告中
ニモ賛成シ難キ點アルコトヲ併セテ言明ス
尚委員會ノ事ニ付所見アリ但シ今 陛下ノ

御前ニテ之ヲ述フルノ必要ナキカ故ニ還御
ノ後當席ニテ述フルコトヲ議長ニ於テ許サ
レタシ

議長(倉富)

此ノ議件議了セハ本會議ハ閉會ス

ハシ議長トシテハ其ノ後ニ於テモ御意見ヲ
聞クヘキモ顧問官列席ノ上トノコトナラハ
計ヒ難シ

十九番

(久保田)

御許ナケレハ已ムヲ得ス他日

相當ノ機會ニ於テ陳述スヘシ

三十一番

(内田)

最早時刻モ移リタレハ極テ簡

單ニ本案賛成ノ趣意ヲ述フヘシ本官ハ已ム
ヲ得ス本案ニ賛成スルニ非ス報告書ニ在ル
如ク本案力曩ノ議會ノ會期延長ニ因ルカ又
ハ臨時議會ノ開會ニ因リ法律ノ形式ヲ以テ
制定セラレタリシナラムニハ其ノ法トシテ
ノ權威ニ於テモ將タ又結果ニ於テモ誠ニ望
マシキ次第ナルモ今日ニ至リテハ已ムヲ得
サルコトナリ就テハ憲法第八條ノ解釋ニ付
既ニ十分討論アリタルモ尚此ノ點ニ付玆ニ
蛇足ヲ加ヘムニ本官ハ昨年ノ財政處分ノ如

キ明ニ憲法違反ノ場合ニハ樞密院カ斷然之
ニ反對スヘキコト勿論ナルモ本案ノ如キ果
シテ憲法第八條ノ精神ニ背馳スルヤ否ヤ所
見ヲ異ニスル場合内閣ニ於テ責任ヲ以テ之
ヲ制定セムトスルニ於テハ本院ハ強テ之ニ
反對スヘキニ非スト信ス本官ハ此ノ見地ヨ
リ暫ク政府ノ所見ニ委ネテ玆ニ本案ノ成立
ニ賛成スルナリ
尚近頃露國ノ狀態ニハ變化ヲ來シ私有財産
權ヲ認メ漸次舊態ニ復スルノ觀アルモ第三

「インターナショナル」ノ計畫セル世界革命ノ目的ニ至テハ秋毫モ變化ナシ本官ハ先年久シク露國ニ在リテ革命ノ遂行ヲ目撃シタルカ彼等カ其ノ主義ノ爲ニ如何ニ奮闘努力シタルカ實ニ一朝一夕ニ非ス假令政府ニ變動アルモ將タ又帝政復興ストモ全カヲ盡シテ世界革命ノ目的ヲ遂行セムトスル彼等ノ企畫ハ到底挫折セサルヘシ故ニ司法大臣モ言ハレシ如ク今日ノ日本ノ共產黨ハ指導監督者附ノモノナレハ之ニ對シ飽迄峻嚴ナル取締

ヲ爲スヘキハ當然ノコトナリ何卒本案ノ施行ニ付些ノ遺漏ナカラムコトヲ希望ス又外務大臣カ共產黨事件ニ關聯シ曩ニ露國大使ニ對シ日本ノ反感ヲ買ハサル様トノ注意ヲ與ヘラレタルコトハ妥當ナルカ尚此ノ點ニ付將來充分御考慮アラムコトヲ望ム先般申述ヘタル通り今日ノ「ソヴィエト」政府ハ第三インターナショナルノ機關ニ過キサルカ故ニ如何ニ同政府ニ於テ日本ノ反感ヲ買ハサル様ニ努ムト言フトモ其ノ裏面ニハ恐ルヘキ企

畫アルコトヲ知ラサルハカラサルナリ尚又
此ノ勅令案成立發布ノ上ハ永久ニ其ノ效力
ヲ保有セシムル爲議會ニ於テ不承諾ト爲ラ
サル様政府ハ十分努力セラレムコトヲ望ム
二十九番(松室) 最早討論ヲ終結シ採決セラレ
ムコトヲ望ム

十八番(金子) 本官ハ昨日來各位ノ御議論ヲ拜
聽シタルカ本案ハ重大問題ニシテ殊ニ憲法
第八條ノ解釋ニ關スルモノナリ然ラハ往年
伊藤公ノ命ヲ承ケテ憲法起草ニ從事シタル

者ノ一人トシテ今尚生存シ當席ヲ汚セル本
官ヨリ茲ニ簡單ニ一言陳述スルコトヲ許サ
レタシ
吾々憲法起草ノ際最モ苦心シタルハ第八條
ノ緊急命令權ナリキ同條ハ政府ノ高等政策
ヲ行フ時ノ論據ト爲ルモノニシテ其ノ事實
ニ現ハルル時ハ政治家ノ責任論ト爲ル此ノ
事ハ余カ茲ニ論議スルヨリモ憲法義解ヲ見
レハ忽チ明瞭ナリ即チ憲法義解ハ曰ク「國家
一旦急迫ノ事アルニ臨ミ又ハ國民凶荒癘疫

及其、他ノ災害アルニ當テ公共ノ安全ヲ保
チ其ノ災厄ヲ豫防救済スル爲ニ力ノ及フ所
ヲ極メテ必要ノ處分ヲ施ササルコトヲ得ス
此ノ時ニ於テ議會偶開會ノ期ニ在ラサルニ
當テハ政府ハ進テ其ノ責ヲ執リ勅令ヲ發シ
テ法律ニ代ヘ遺計無ラシムルハ國家自衛及
保護ノ道ニ於テ固ヨリ己ムヲ得サルニ出ル
者ナリト今日ノ場合ハ正ニ之ニ當ル其ノ政
府カ責任ヲ執ラムトスルノ事態ニ付テハ政
府當局及他ノ顧問官ヨリ陳述アリタル通り

些ノ逡巡ヲ許サス輿論又恐ルルニ足ラス此
ノ際吾人ハ本案ノ制定ヲ慫慂シタキ程ナリ
是レ憲法ノ是認セル政策ナレハナリ然ルニ
世間ニ誤解アリ曰ク樞密院ハ昨年前内閣ノ
立案セル財政處分案ヲ否決シ今日現内閣ノ
提案ヲ可決セムトスルハ不可解ナリト是レ
誤レリ本院カ憲法第八條ニ依ル緊急勅令案
ヲ可決シタル先例ハ幾十ヲ算スルモ第七十
條ニ依ル財政處分案ニ至テハ容易ニ之ヲ承
認セス例ヘハ去ル大正四年若槻氏大藏大臣

タリシ大隈内閣ニ於テ蠶絲業救済ノ爲ニス
ル緊急處分ヲ立案本院ノ詢議ニ付セラレタ
ル時委員會ニ於テ約一箇月間研究シタルモ
同意スル能ハス終ニ大隈内閣總理大臣ハ奏
請シテ案ヲ撤回シタルコトアリ然ルニ昨年
若槻氏内閣ノ首班トシテ夫ト同様ノ案ヲ提
議シ吾々ノ同意ヲ求メラレタルモ吾々ハ
御前ニ於テ先例ニ依リ之ヲ否決シタルコト
各位御承知ノ通りナリ然レトモ本案ハ憲法
第八條ニ依ルモノニシテ之ヲ可決シタル先

例アルノミナラス其ノ緊急ヲ要スル事態ニ
付テハ責任ヲ執レル政府ノ痛言セル通りニ
シテ本官等亦ボルシエヴィズムノ危険ナルコト
ヲ熟知セリ今日此ノ如キ共產主義者ノ我カ
同胞中ヨリ出テタルコトハ甚タ遺憾ナルモ
既ニ露國ト氣脈ヲ通シテ彼ノ惡結社ノ組織
ヲ爲セル者アル以上ハ一刻モ速ニ之ヲ絶滅
セシムルコト必要ナリ即チ本案ノ制定ハ之
カ爲緊急已ムヲ得サル措置ニシテ政府力責
任ヲ以テ之ヲ遂行セムトスルニ因リ憲法上

毫モ支障ナシト認ム是レ本官カ本案ニ賛成
スル所以ナリ

議長(倉富) 本件ハ誠ニ重要ナル案件ニ付二日
間ニ互リ十分審議ヲ盡シタルカ最早討論モ
盡キタリト認ムルヲ以テ第二讀會以下ヲ省
略シ直ニ採決ニ付スヘシ本案賛成ノ各位ノ
起立ヲ請フ

多數可決

(久保田、石黒、井上、松室、
江木各顧問官起立セズ)

本日ハ之ニテ閉會ス

聖上入御

(午後三時四十分閉會)

議長男爵倉富重三郎

書記官長二上六次

書記官

堀江季雄

武藤盛雄

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問
ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ
依リ治安維持法中改正ノ件ヲ裁可シ之
ヲ公布セシム

御名 御璽

年 月 日

内閣總理大臣

各省大臣

勅令第 號

治安維持法中左ノ通改正ス

第一條 國體ヲ變革スルコトヲ目的ト

シテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ

役員其ノ他指導者タル任勞ニ從事シ

タル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上

ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知リテ結

社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂
行ノ為ニスル行為ヲ為シタル者ハ二
年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ
私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的
トシテ結社ヲ組織シタル者結社ニ加
入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ為
ニスル行為ヲ為シタル者ハ十年以下

ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二條中「前條第一項」ヲ「前條第一項又ハ

第二項ニ改ム

第三條及第四條中「第一條第一項」ヲ「第一

條第一項又ハ第二項ニ改ム

第五條中「第一條第一項及」ヲ「第一條第一

項第二項又ハニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

[illegible]